

静岡県立農林環境専門職大学

専任教員 研究概要



令和4年9月



1 生産環境経営学部（大学）

	教員名	学部	職位	キーワード/専門分野	ページ
1	多々良 明夫	生産環境経営学部	教授・学部長	害虫防除、アザミウマ、天敵、生物学的防除	1
2	天野 哲郎	生産環境経営学部	教授	リスクマネジメント、オペレーション・リサーチ、技術の経営評価	2
3	池田 潔彦	生産環境経営学部	教授	木材材質学、木材物理学、非破壊検査	3
4	逢坂 興宏	生産環境経営学部	教授	砂防学、森林水文学、緑化学	4
5	小澤 朗人	生産環境経営学部	教授	病害虫、防除、チャ、農薬、天敵、ダニ、ドローン、応用昆虫学	5
6	柯 麗華	生産環境経営学部	教授	流通、マーケティング、チャネル戦略、小売業の比較研究、越境電子商取引	6
7	菊池 宏之	生産環境経営学部	教授	フードシステム、経営戦略、地域創生、地域の資源活用、流通経営	7
8	佐藤 展之	生産環境経営学部	教授	施設園芸、環境制御、養液栽培、花き栽培、作物生体情報	8
9	杉山 恵太郎	生産環境経営学部	教授	応用昆虫、天敵生物、IPM、施設園芸、環境制御、自然環境復元	9
10	祐森 誠司	生産環境経営学部	教授	栄養、飼料、管理、アミノ酸、ビタミン	10
11	外側 正之	生産環境経営学部	教授	植物病理学、糸状菌・細菌、真菌属菌、土壌伝染性病害、生体と防除	11
12	前田 節子	生産環境経営学部	教授	農と食の連携、食文化、在来作物、6次産業化、農芸品の加工	12
13	松尾 和之	生産環境経営学部	教授	作付体系、家畜糞、耕起・播種法、種子休眠	13
14	森口 卓哉	生産環境経営学部	教授	子供食堂、フードバンク、農福連携・障害者雇用、おてらおやつクラブ、リサイクルーム、放課後児童クラブ	14
15	大塚 誠	生産環境経営学部	准教授	家畜、飼養管理、衛生管理、ニワトリ、雌雄鑑別	15
16	内藤 博敬	生産環境経営学部	准教授	衛生（食品衛生/環境衛生）、微生物/感染症（食中毒）、オゾン、オゾン水、機能水、光触媒等の新しい抗菌技術、予防医学	16
17	中山 正典	生産環境経営学部	准教授	日本民族学、農業史、農業用水、民俗調査、民俗誌	17
18	丹羽 康夫	生産環境経営学部	准教授	分子生物学、在来作物、バイオテクノロジー、ゲノム系統分析、農林業と伝統芸能・文化	18
19	平岡 裕一郎	生産環境経営学部	准教授	林木育種、統計遺伝学、大規模データ分析、樹木生理、森林計測	19

20	大石 竜	生産環境経営学部	講師	野菜、イチゴ、経営管理、法人化、生産管理	20
21	太田 智	生産環境経営学部	講師	農福連携、果樹、遺伝育種、系統分類	21
22	貞弘 恵	生産環境経営学部	講師	サルモネラ、病原性大腸菌、薬剤耐性、腸内細菌	22
23	長藤 亮彦	生産環境経営学部	講師	トラクターの構造と機能、運転操作、農作業安全、大型特殊免許、けん引免許	23
24	藤代 薫	生産環境経営学部	助教	木材接着、木質材料、木材切削、振動特性、セルロースナノファイバー	24

## 2 短期大学部（短大）

	教員名	学部	職位	キーワード/専門分野	ページ
1	竹内 隆	短期大学部	教授・学科長	イチゴ、野菜、育種、品種、栽培	25
2	稲葉 善太郎	短期大学部	教授	花き、果樹、ワサビ、育種、新品種開発、園芸、栽培、開花調節	26
3	片山 信也	短期大学部	教授	発酵飼料、発酵食品、堆肥調製・品質評価、ヨーネ病防疫、草地造成、アシストスーツ、地域ブランド、耕作放棄地の畜産利用	27
4	小林 信一	短期大学部	教授	畜産経営学、畜産政策、野生動物管理・利用	28
5	近藤 晃	短期大学部	教授	林業用苗木の育苗技術、苗木の耐凍性および耐乾燥性の評価、材木の物質生産及び養分動態、植付等造林初期の保育技術	29
6	杉山 泰之	短期大学部	教授	果樹、栄養診断、土壌肥料、GAP	30
7	鶴飼 一博	短期大学部	准教授	森林科学、コヒジカ、高山植物、植生復元、治山、地すべり対策、CIMモデル	31
8	中根 健	短期大学部	准教授	野菜栽培、野菜品質評価、野菜流通技術、野菜鮮度保持技術、野菜貯蔵技術	32
9	中野 敬之	短期大学部	准教授	茶園管理技術、気象災害防止、気象反応特性の解明、生育予測	33
10	横田 茂永	短期大学部	准教授	農業経済、農業経営、有機農業、新規参入、企業の農業参入	34
11	渡邊 貴之	短期大学部	准教授	黒毛和種、代謝 <sup>o</sup> ロファイルスト、受精卵移植、放牧、牛繁殖領域における超音波診断	35
12	池ヶ谷 篤	短期大学部	講師	イチゴ、食品加工、官能評価、貯蔵流通、輸出	36
13	五十右 薫	短期大学部	講師	花き、切花、育苗、開花調節、増収技術、普及指導	37
14	青山 東一	短期大学部	講師	農業、畜産、養豚、環境、加工	38
15	坂口 良介	短期大学部	講師	野菜、トマト、養液栽培、土壌、植物栄養、肥料	39

16	瀬戸 隆弘	短期大学部	講師	酪農、予防獣医療、生体モニタリングデータの活用	40
17	星川 健史	短期大学部	講師	林業経営、木材加工、木材流通、リモセンシング	41
18	増田 壽彦	短期大学部	講師	野菜栽培、営農指導、普及指導、砂地野菜、 スイートコーン栽培	42
19	山家 一哲	短期大学部	講師	果樹栽培、青果物鮮度保持、環境保全	43
20	吉村 親	短期大学部	講師	食農教育、農業小学校、都市農村交流、グリーン・ツーリズム、新規就農、移住、農地、農業と福祉、生涯学習	44

# 生産環境経営学部



たたら あきお  
多々良 明夫

【生産環境経営学部】



tatara.akio あつと spua.ac.jp



## アピールポイント

果樹、茶、野菜、花など幅広い作物を加害する害虫の生態、防除法を研究してきました。特にアザミウマ、寄生蜂の生態に興味があります。

## キーワード／専門分野

- ・害虫防除
- ・アザミウマ
- ・天敵
- ・生物的防除

## 主な研究分野／活動実績

### 静岡県柑橘試験場 | 1982 - 1989

- ・チャノキイロアザミウマの生態と防除に関する研究



左:チャノキイロアザミウマ雌成虫

右:温州みかんのかすり状被害

### 静岡県農業試験場 | 1990 - 1991

- ・イチゴを加害するハダニの薬剤感受性とリサージェンスに関する研究
- ・シバ害虫の発生予察法の開発

### 静岡県西部病害虫防除所 | 1992 - 1994

- ・シバ害虫の発生予察法の開発
- ・マメハモグリバエの輸入天敵による生物的防除に関する研究

### 静岡県茶業試験場 | 1995 - 1996

- ・クワシロカイガラムシの防除適期に関する研究



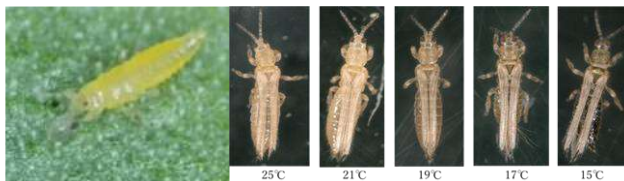
クワシロカイガラムシの虫体と卵

### 静岡県農林技術研究所 | 2005 - 2007

- ・土着天敵を利用したカンキツ、チャ、トマトの害虫の生物的防除に関する研究

### 法政大学生命科学部 | 2016 - 2019

- ・マメハモグリバエのキク品種に対する寄生性の変化
- ・ミカンキイロアザミウマの捕食者としての能力
- ・アザミウマの体色と温度との関係
- ・シソのモザイクウイルスを媒介するザビダニの生態に関する研究
- ・シキミに寄生するフシダニ類と葉の輪紋症状との関係



左:ハダニの卵を捕食するミカンキイロアザミウマ幼虫  
右:飼育温度別のミカンキイロアザミウマの色の違い

## 資格 | 特技 | 学位 | 研究テーマ

資格: 技術士(農業)

学位: 博士(農学)

研究テーマ: 害虫の生態、害虫防除法

## 担当授業科目

〈大学〉応用昆虫学、県内農林業事情、静岡学、経営実習、経営分析演習、プロジェクト研究



# あまの てつろう 天野 哲郎

【生産環境経営学部】



amanot.tetsuro あつと spua.ac.jp



## アピールポイント

綿密な実態調査に基づく農業経営体の数学的なモデル化と、線形計画法をはじめとするOR手法を活用した経営・経済分析が得意です。

## キーワード／専門分野

- ・リスクマネジメント
- ・オペレーションズ・リサーチ
- ・技術の経営評価

## 主な研究分野／活動実績

### 農林水産省北海道農業試験場 | 1978～1986 年

北海道畑作農業における農地購入の規範的分析、畑作経営の災害抵抗性と作物保険の機能など、定量的手法による経営分析に従事。成果は「農業経営のリスクマネジメント」（農林統計協会 2000 年）として公刊。（図は逐次線形計画法とモンテカルロ法を組み合わせ畑作経営の農地購入による 20 年間の経営成長（自己資本増加額）が価格条件や作物共済加入の有無でどのような分布の違いを示すかについてのシミュレーション結果です。）



### 農林水産省農業研究センター | 1987～1990 年

キャベツ根こぶ病の長期発生予測モデルの開発と圃場カルテシステムの開発に従事。

### 農林水産省東北農業研究センター | 1990～1999 年

東北地域の野菜産地の価格安定化や、「寒じめ菜っ葉」による中山間地の産地マーケティングの研究に従事。

### 農研機構北海道農業研究センター | 1999～2005 年

トラクタ伴走式キャベツ機械収穫体系の経営評価や品目横断的経営安定対策の事前評価に関する研究に従事。



### 農研機構本部研究調査チーム | 2006～2010 年

共分散分析による 2008 年の穀物価格高騰の要因解析など、研究ターゲットの設定に向けた農業をめぐる環境の分析に従事。

## 資格 | 特技 | 学位 | 研究テーマ

学位：博士（農学）北海道大学

受賞歴：平成 12 年度日本農業経営学会学術賞

研究テーマ：農業経営のリスクマネジメント、農業技術の経営評価、農業におけるケースメソッドの適用

## 担当授業科目

農林業政策、農林業経営学、営農と農業関連法。

いけだ きよひこ  
池田潔彦

【生産環境経営学部】



ikedakiyohiko あつと spua.ac.jp



## アピールポイント

木材・木質材料の特性解明と有効活用手法（川中）の研究を核としながら、建築（川下）や林業（川上）との連携や森林資源循環を進める上で必要な狭間の研究や事業活動に関わってきました

## キーワード／専門分野

木材材質学、木材物理学、非破壊検査

## 主な研究分野／活動実績

### 静岡県林業技術センター |1987～2006年

静岡県内各地域に生育するスギ・ヒノキ製材品の材質及び強度性能の解明、静岡県産材による構造用の大断面集成材、LVL（単板積層材）及び構造用合板の高信頼性製造技術の開発、次代検定林等のスギ・ヒノキ精英樹の材質特性の解明に従事（1988～1996年）。

民間企業との共同研究により、木材や丸太の強度性能を非破壊で評価する機器の開発や、樹皮廃材等バイオマス有効利用に関する研究に従事。（1997～2002年）

在来軸組木造住宅の耐震性向上技術と接合部耐力特性の向上技術の研究では、耐力壁や床組及び継手・仕口の耐力発現要因の解明や新たな接合金物の開発等に従事（2003～2006年）。

### 静岡県農林技術研究所森林・林業研究センター |2007～2020年

材質育種の関連研究では、立木材質の非破評価手法、材質の優れた品種系統の早期選抜技術、森林施業（植栽密度、生育環境）等が材質形成に及ぼす影響の解明等に従事した。他の研究機関との共同研究（競争型研究資金）と、公的認証を可能とする高信頼性接着重ね梁の開発と、CO<sub>2</sub> ヒートポンプを応用した木材乾燥装置の開発に取り組み、新たな木質材料や乾燥装置の開発に従事（2007～2012年）。

静岡県の新成長戦略研究では、木造建築用材を外材から県産材へ転換する製品創出技術の開発と、多様なニーズに対応する県産材供給体制構築に関する技術開発に従事し、原木グレーディングマシン、積層接着併せ梁や、内装材、外構材等の開発に従事（2012～2016年）。

近年の実施研究では、競争的研究資金による、要求性能に応じた木材を提供するため国産大径材丸太の強度から建築部材の強度を予測する技術の開発、原材料の安定供給による構造用集成材の低コスト化技術の開発、及び国産早生樹種の用材利用に向けた材質・加工特性の解明に従事（2016～2021年）。

### 資格 | 特技 | 学位 | 研究テーマ

学位：博士（農学）東京大学

受賞歴：林業科学技術振興賞（1996年）、全国林業試験研究機関協議会研究功績賞（1997年）日本木材学会技術賞（2003年）、日本木材学会地域学術振興賞（2012年）、

研究テーマ：スギ・ヒノキ及び早生樹の早期材質評価、立木や木質材料の非破壊評価手法、木質構造材の耐力発現機構の解明

### 担当授業科目

<大学> 木材利用・流通論、経営実習ⅠⅡ、経営分析演習ⅠⅡ、プロジェクト研究、分担：企業実習、木材加工実習、木材生産システム、生産マネジメント実習Ⅱ（林業）<短大> 分担：木材流通・利用論、木材生産システム

おうさか おきひろ  
逢坂 興宏

【生産環境経営学部】



osaka.okihiro あつと spua.ac.jp



## アピールポイント

山地斜面の安定性を評価するため、  
地形～水文～土層構造～根系分布  
の相互関係を研究しています。

## キーワード／専門分野

- ・砂防学
- ・森林水文学
- ・緑化学

## 主な研究分野／活動実績

静岡大学農学部 | 1993-2019

### 砂防学分野

Quantitative decrease in the area of slope failures in a mountainous area with vegetation cover, 富士川上流小武川における崩壊地の変遷について, 密度の異なる竹林試験区における地表流出と土壌侵食, 平成 26 年 7 月 9 日長野県南木曾町で発生した土石流災害, Behavior of boulders within a debris flow initiation zone, Investigation of volcanic deposits using a combined penetrometer-moisture probe, Application in Izu-Oshima Volcano, Japan.

### 森林水文学分野

谷の発達程度の異なる山地小流域間における降雨流出特性の違い, 大規模崩壊地を有する流域の流出特性, 集落周辺の里山小流域における洪水流出の形成について, 荒廃小流域における掃流砂・浮遊砂の流出実態, 荒廃小流域を流下する渓流水の降雨時の水質変化, 丘陵地谷頭部斜面における飽和帯形成に及ぼす降雨条件

### 緑化学分野

風化花崗岩斜面におけるヒノキ人工林の根系分布と土層構造, ヒノキ人工林における樹木根系分布に与える土層の硬さの影響, 大規模崩壊地を有する溪畔域において動的立地環境が植生遷移に及ぼす影響, 緑化のり面における倒木の発生事例とその要因, 植生工施工後の植生遷移と生育基盤の形成に関する基礎的研究, 立木境界に分布するヒノキの水平根量の推定, のり面緑化工の手引き

### 所属学会

公益社団法人 砂防学会, 公益社団法人 日本地すべり学会  
一般社団法人 水文・水資源学会, 日本緑化学会  
一般社団法人 日本森林学会, 中部森林学会

### 社会活動

イラン・個別専門家派遣事業短期専門家, (NPO) 静岡県自然史博物館ネットワーク監事, 人事院国家公務員 I 種試験(砂防)委員

### 資格 | 特技 | 学位 | 研究テーマ

学位: 博士(農学) 東京農工大学, 農学修士, 農学士  
「花崗岩斜面土層の発達過程と安定性に関する研究」  
受賞: 砂防学会論文奨励賞(1996)

### 担当授業科目

<大学> 情報処理基礎, 情報処理応用, 農林業のための地学, 森林土木学, 森林計画・政策論(分担), 環境と農林業(分担) 他  
<短大> 森林土木論, 森林計画学(分担) 他

おざわ あきひと  
小澤 朗人

【生産環境経営学部】



ozawa.akhito あつと spua.ac.jp



## アピールポイント

県の試験研究機関で長年にわたって現場の病害虫問題に取り組んできました。特に、茶業研究センターでの勤務が長く、チャの病害虫と防除に関する知識と経験が豊富です。近年は、新たな技術として、ドローンによる病害虫のリモートセンシング技術の開発にも取り組んでいます。

## キーワード／専門分野

病害虫、防除、チャ、農薬、天敵、ダニ、ドローン／応用昆虫学



## 主な研究分野／活動実績

**研究分野：**農作物病害虫の生態と防除

**静岡県農業試験場園芸部・病害虫部 | S60-H2**

温室メロンの自動灌水装置の開発、病害虫発生予察、スクミリングガイ（ジャンボタニシ）の生態と防除法、野菜害虫コナガの薬剤抵抗性の解明など。



**静岡県中遠病害虫防除所 | H2-6**

農薬行政、病害虫発生予察事業、侵入害虫タバココナジラミの調査、チャ害虫クワシロカイガラムシの防除法など。オランダおよびイギリスの施設栽培における天敵農薬の利用実態を調査（1993年海外研修）。

**静岡県農業試験場病害虫部 | H6-12**

野菜花卉の害虫の生態と防除法、施設野菜における天敵農薬による生物的防除法、侵入害虫マメハモグリバエの生態解明と寄生蜂による生物的防除法の開発により博士号（農学）を取得。



**静岡県茶業試験場（茶業研究センター） | H12-30**

チャ炭疽病の被害解析、クワシロカイガラムシの防除適期予測法、クワシロカイガラムシやハマキガ類の薬剤抵抗性、マダラカサハラハムシの生態解明、土着天敵類の生物多様性と保護技術、フェロモン剤を利用した防除法の開発とIPM体系の実証、海外の農薬残留基準に適合する防除体系の構築、侵入害虫チャトゲコナジラミの生態解明と防除対策、ドローンを活用したチャ病害虫のリモートセンシング技術など様々な課題に取り組む。



**静岡県立農林大学校研究部 | H30-31**

研究部アグリビジネス学科の学生を指導。指導学生は、ヤンマー懸賞論文の優秀賞やいわしんビジネスコンテストの最優秀賞等を受賞した。

## 資格 | 特技 | 学位 | 研究テーマ

博士（農学）、普及指導員、JUIDA 認定無人航空機操縦士・運航管理責任者

所属学会等：日本応用動物昆虫学会（代議員）、日本茶業学会、日本ダニ学会、関東東山病害虫研究会、関西病虫害研究会、農林害虫防除研究会

現在の研究テーマ：ドローンを活用したチャ病害虫の画像診断技術

## 担当授業科目

植物保護<短大>、環境保全型農林業論、企業実習、経営実習、経営分析演習、プロジェクト研究、フレッシュマンセミナー

# 柯 麗華

【生産環境経営学部】



ka.reika あつと spua.ac.jp



## アピールポイント

インバウンド・マーケティング、訪日中国人観光客の消費行動、中国人向けの越境電子商取引に関する研究分析を得意とする。

## キーワード／専門分野

流通、マーケティング、チャンネル戦略、小売業の比較研究、越境電子商取引

## 主な研究分野／活動実績

### 愛知大学国際中国学研究センター

(2005年4月～2007年3月)

COE 研究員として勤務。所長および各研究部会主査と協力して、研究センター事業を推進するために必要な研究を行いながら、リサーチ・アシスタントや大学院生を統括し、研究会活動の運営を担当した。

研究成果として、単著『現代中国の小売業－日本、アメリカとの比較研究』（創成社、2007年）を出版。



### 愛知大学および椋山女学園大学非常勤講師

(2007年4月～2010年3月)

愛知大学で「商業経済論」「流通論」「環境マーケティング論」「国際マーケティング論」などの科目を担当。椋山女学園大学では「中国語」を担当した。

### 静岡産業大学経営学部、情報学部

2018年3月まで准教授として、「商学入門」「流通システム論」「マーケティング入門」「環境マーケティング」「ブランド論」「広告戦略論」「広告心理学」などの科目を担当し、2018年4月からは教授として勤務。

研究成果として、単著『爆買いを呼ぶおもてなし－中国人誘客への必須15の常識・非常識－』（静岡新聞社、2015年）を出版。



## 資格 | 特技 | 学位 | 研究テーマ

学位：博士（経営学）愛知大学

研究テーマ：訪日中国人観光客の消費行動、日中両国の越境電子商取引の比較研究、お茶の販売チャネルの構築

## 担当授業科目

マーケティング論、販売管理実習、マーケティング・販売演習

きくち ひろゆき  
菊池 宏之

【生産環境経営学部】



kikuchi.hiroyuki あつと spua.ac.jp



## アピールポイント

理論研究は当然のことですが、徹底した実態調査を前提（現地調査）として、経営改善策の策定や活性化に関する取組に力点を置いて、各種研究に従事しています。

## キーワード／専門分野

- ・フードシステム
- ・経営戦略
- ・地域創生
- ・地域の資源活用
- ・流通経営

## 主な研究分野／活動実績

- ・経済産業省管轄の流通専門研究所で、卸売業起点の商慣行実態調査、卸売業の活性化戦略等の実態調査担当。大手卸売業対象「新中間流通研究会」を16年間主宰。消費財メーカー流通戦略策定等。
- ・都内2私大の経営学部に延べ15年間所属し、1校目で学科長、学長補佐及び大学院研究科で、流通論、流通戦略論等を担当。2校目で、学科長、学部入試委員長等を歴任し、特別区の商業活性化の企画・推進に深く関わる。仙台の私大では、学部再構築に関わる。
- ・その間、7学会に所属する。その中で、日本フードシステム学会、日本卸売学会で副会長（前者1期、後者2期）、日本産業経済学会常任理事（2期）、日本物流学会理事（2期）に就任。
- ・書籍は12冊（2冊は編著、他は共著）・学術論文は38編（いずれも単著）・学会報告は31回（内国際学会2回）
- ・主たる研究助成金受領

日本物流学会特別研究費「SCM構築時代における物流サービス業育成の課題」研究代表平成17年度

中国天津市教育委員会：天津市2015年大学専門家招聘研究助成「オンラインショッピングモールにおける物流効率の改善に関する研究」研究代表者平成27年度

科学研究費助成事業 基盤研究 C 「買物困難者問題解決策としての価値共創型小売経営での持続的展開の課題に関する研究」研究代表者（退職に伴い平成30年3月末日で廃止）

天津外国専門家局・中国政府外国専門家局上級外国人専門家プロジェクト「食品SCM構築の国際比較研究～食品小売業を起点としたコールドチェーン・システム構築を主体に～」研究代表者平成29年度

・これまでの主たる研究課題は、以下の様に類型化できる。

- 1990年～2002年：企業間取引慣行の実態と課題に関する研究  
(国内卸売業を主体商慣行の実態と流通システムにおける課題)
- 2002年～2007年：構造変革期における卸売商の経営戦略課題に関する研究 (消費財卸売業の販売戦略)
- 2007年～2014年：企業間連携化の実態と課題に関する研究  
(製配販での消費者対応方策)
- 2014年～2018年：流通システムの社会的機能と課題に関する研究  
(買物困難者対応と事業の持続性の課題)
- 2018年～ 現在：地域資源活用による地域創生に関する研究  
(地域資源活用による地域創生)

## 資格 | 特技 | 学位 | 研究テーマ

博士（学術）千葉大学 消費財（特に食品）流通企業（食品卸売業、小売業）起点に、企業間関係、企業の優位性確保戦略、地域における地域資源（農水産業等）活用の関係人口増加策等を研究。

## 担当授業科目

経営管理論、フードシステム論、アグリフードシステム論、農と食の起業論

# さとう のぶゆき 佐藤 展之

【生産環境経営学部】



sato.nobuyuki あつと spua.ac.jp



## アピールポイント

施設園芸の省エネ技術  
バラ・メロンの養液栽培技術  
作物の生体情報

農家、企業と共同研究を実施してきました。共同研究は、研究開発の促進に大変役立ちました。

## キーワード／専門分野

- ・施設園芸
- ・環境制御
- ・養液栽培
- ・花き栽培
- ・作物生体情報

## 主な研究分野／活動実績

### 静岡県農業試験場所属 | 1989-1995

#### 温室メロンの生体情報の研究

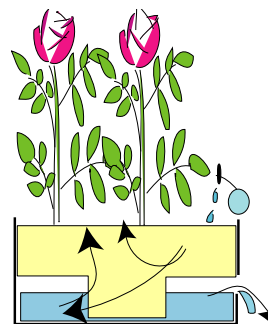
温室メロンの水分状態を常時把握し、その値からかん水を自動的に行うシステムの開発を行いました。水分状態は、メロンの莖径をレーザーセンサで測定し、その膨縮率から判断しました。



### 静岡県農林技術研究所所属 | 2001-2006

#### バラ養液栽培における排出肥料削減

バラ栽培では、養液栽培が広く普及しています。バラの養液栽培で、肥料を効率的に利用する技術開発を行いました。これは、給液時に余った液肥を再利用できる容器と、液肥と水を交互に与える間欠給液法を組み合わせた技術です。



### 静岡県農林技術研究所所属 | 2007-2010

#### バラ栽培におけるヒートポンプ利用による省エネ技術

バラは年間を通して栽培できますが、低温期に出荷をするためには、暖房が必要です。生産費の中では暖房コストが多くを占め、重油価格により経営が大きく影響を受けます。従来から使われている重油暖房に加え、電気式ヒートポンプを組み合わせたハイブリッド方式による冷暖房システムにより、バラ栽培のエネルギー投入量を40%程度低下できるとともに、夏季の夜間冷房によりバラの品質向上ができることを明らかにしました。



### 資格 | 特技 | 学位 | 研究テーマ

博士（農学）、普及指導員

施設園芸作物の生体情報把握技術開発

効率的な養液栽培システムの開発

### 担当授業科目

<大学> 農学概論、県内農林業事情、農林業生産理論、土壌肥料学・植物栄養学、農業気象学、園芸学、園芸学各論、収穫後生理学、経営実習、経営分析演習、プロジェクト研究 <短期大学部> 農学概論

すぎやま けいたろう  
杉山 恵太郎

【生産環境経営学部】



sugiyama.keitaro あつと spua.ac.jp



## アピールポイント

これまで、農業害虫の生態から防除対策、特に天敵生物による IPM に取り組んできました。今後は、施設園芸の環境制御の開発、さらに自然環境の保全・復元とテーマを広げて取り組んでいきたいです。

## キーワード／専門分野

応用昆虫、天敵生物、IPM  
施設園芸、環境制御、自然環境復元

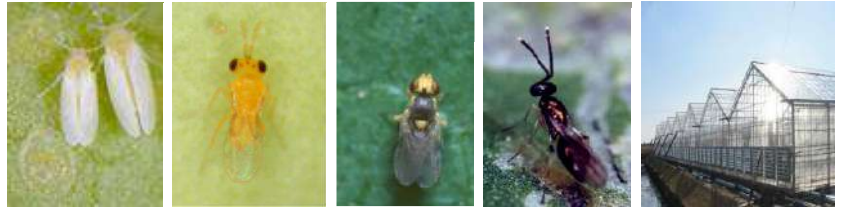
## 主な研究分野／活動実績

### トマト栽培における天敵寄生蜂を利用した総合的病害虫管理（IPM） | 1999～2003

海外から侵入した農薬に対する高い抵抗性をもつコナジラミ類、ハモグリバエ類に対して天敵寄生蜂を中心とした防除体系により、化学農薬を大幅に削減し、経済的に成立することを明らかにした。（国庫：プロジェクト研究 環境負荷低減のための病害虫群高度管理技術）

### 強制換気システム導入施設における土着天敵寄生蜂等を利用したトマトの IPM 体系 | 2004～2008

温室に設置した強制換気システムによる害虫侵入防止技術、土着天敵寄生蜂によるハモグリバエ類の防除技術などをトマトの IPM として体系化し、その有効性を明らかにした。（国庫：プロジェクト研究 生物機能を活用した環境負荷低減技術の開発）



タバココナジラミ チチュウカイツヤコバチ マメハモグリバエ カンムリヒメコバチ 強制換気温室

### 環境に配慮したワサビにおける総合的作物管理システムの確立 | 2006～2008

静岡県が中核機関として長野県、岩手県、島根県、静岡大学、全国わさび生産者協議会と取組んだ国庫事業において、カブラハバチ、スジグロチョウ、アブラムシ類の防除技術を明らかにし、ワサビの総合的作物（ICM）マニュアルとして体系化した。（国庫：新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業研究）

### 県内施設園芸の生産性向上と拡大への取組 | 2014～2019

県内の JA 部会員等と温室の環境制御技術の勉強会や作物の生育と環境分析の取組を支援し、温室の新設に対する補助を行った。

### 資格 | 特技 | 学位 | 研究テーマ

博士（農学）、普及指導員、学芸員

園芸作物の害虫防除技術の開発、施設園芸の環境制御技術の開発、自然環境復元技術（ビオトープ）の開発

### 担当授業科目

<大学> 農学概論、県内農林業事情、農林業生産理論、園芸学、県外農林業事情、園芸学各論、海外農林業事情、企業実習、経営実習、経営分析演習、プロジェクト研究、<短大> 農学概論



すけもり せいじ  
祐森 誠司

【生産環境経営学部】



sukemori.seiji あつと spua.ac.jp



## アピールポイント

動物の栄養、飼料に関する領域ならびに排泄物処理に関する領域を専門とします。動物の種類は基本的に四つ足動物であれば、家畜、実験動物、ペットの種類に関係なく対応できると思いますので、ひとまずご相談下さい。

学会活動：日本養豚学会会長、日本畜産環境学会、理事ならびに編集委員長

社会活動：TV番組、新聞などの専門領域解説対応も多数

著書：

動物飼養学（養賢堂）

養豚用語事典（創文）

動物の飼育管理（文永堂出版）

## キーワード／専門分野

栄養、飼料、管理、アミノ酸、ビタミン

## 主な研究分野／活動実績

### 所属 | 在職期間

1987-1992：鹿光グループ（鹿友ビル（株）、鹿光生物化学研究所）栄養素条件（アミノ酸バランス）の変更と制癌剤効果の因果関係について in vitro 試験を実施しました。

Inhibition of cultured leukemia cell growth by enhanced adriamycin cytotoxicity with reducing of glutamine or asparagine level in medium Cancer Biochem. Biophys. 第14巻 pp.99~105 などです。

1992-1995：秋田県立農業短期大学（畜産学科）トナカイの飼養管理方法の検討と食品製造粕を利用した養豚について試験に取り組みました。

トナカイ(Rangifer tarandus)の放牧地における行動-飼育環境評価の一指標としての行動調査- 秋田県立農業短大研究報告 第20巻 pp.63~68

The effect of treading by reindeer and Yeso Sika deer hooves on the compaction of land surface in grazing areas 家畜管理会誌 第30巻 第3号 pp.63~68 などです。

1995-2020：東京農業大学農学部（畜産学科・教養部）ネズミ・ウサギの栄養素要求に対する食糞行動の役割、畜産領域におけるL-カルニチンの役割について取り組みました。

Amino acid, mineral and vitamin levels in hydrous faeces obtained from coprophagy-prevented rats J.Anim.Physiol. a.Anim.Nutr. 第87巻 pp.213~220

産歴の多い繁殖雌豚の分娩前後にL-カルニチンを短期給与することが母豚の体重変化および子豚の成長に及ぼす影響 日本養豚学会誌 第49巻 第2号 pp.31~37 などです。

### 資格 | 特技 | 学位 | 研究テーマ

東京農業大学大学院農学研究科博士後期課程

1987：「細胞膜におけるアミノ酸の移行に対するL-Prolineの役割」農学博士取得しました。

2011：日本養豚学会丹羽賞（学術賞）を受賞しました。

2014、2017、2019：Animal Science Journal Reviewers Awardを受賞しています。

### 担当授業科目

家畜飼養学、飼料学総論、農林業のための化学などを単身で担当し、農学概論、県内農林事情、農業生産理論をオムニバスで担当しています。

とがわ まさゆき  
外側 正之

【生産環境経営学部】



togawa.masayuki あつと spua.ac.jp



## 主な研究分野／活動実績

35年間、一貫して静岡県の「植物保護」業務に携わってきました。

静岡県内における、樹木を含むあらゆる農作物について、病害の診断・調査と、防除対策の研究・指導を行ってきました。

また、全国の「植物病理」関係者と交流があるので、私が見つからない場合でも、必要に応じ対応可能な研究者を紹介できます。

・農業試験場南伊豆分場（昭和60～平成元年）

花・観葉植物・伊豆特産野菜の病害虫を担当

・柑橘試験場（平成2～平成5年）

果樹の病害を担当

・中部病害虫防除所（平成6～7年）

中部・志太榛原地区における病害虫を担当

・(統合)病害虫防除所（平成8～11年）

県内全域の病害虫および農薬行政を担当

・農業試験場病害虫部（平成12～19年）

野菜・花・樹木の病害担当

・茶業研究センター（平成20～28年）

チャの病害担当

・病害虫防除所（平成29～31年）

県内主要農作物の病害および農薬行政の一環として「農作物病害虫防除基準」編集を担当

代表的な赤色系フザリウム属菌 (*F. graminearum*)



資格 | 特技 | 学位 | 研究テーマ

・博士（農学）「赤色系 *Fusarium* 属菌による各種植物病害に関する研究」平成16年

・樹木医（登録番号2034号）平成23年

・普及指導員（第4168号）平成18年

## アピールポイント

微生物による植物の病害について、生態の解明や病原体の同定および防除法の確立に関する研究を行っています。

微生物の中でも、特に、糸状菌・細菌による植物病害を研究しています。ライフワークは、*Fusarium*（フザリウム）属菌の生態解明です。

## キーワード／専門分野

- ・「植物病理学」
- ・「糸状菌・細菌」
- ・*Fusarium*（フザリウム）属菌
- ・「土壌伝染性病害」
- ・「生態と防除」

## 担当授業科目

<大学>「植物病理学」、「環境と農林業」、「農学概論」、「土壌肥料・植物栄養学」、「経営実習ⅠⅡ」、「経営分析演習ⅠⅡ」、「プロジェクト研究ⅠⅡ」

# まえだ せつこ 前田 節子

【農林環境専門職大学】



maeda.setsuko あつと spua.ac.jp



## アピールポイント

「農業で人の健康に貢献したい」という永遠のテーマのもと研究を行っています。研究成果により「Happy」が増えることを願っています。機能性成分に関する研究を続けるとともに、地域連携のプロジェクトについても積極的に行ってきました



## キーワード／専門分野

- ・農と食の連携
- ・食文化
- ・在来作物
- ・6次産業化
- ・農芸品の加工

## 主な研究分野／活動実績

長野県安曇野市出身（1958）

**静岡大学農学部・岐阜大学大学院連合農学研究科 | 1998-2010**

イネを材料としてフィールドと分析を組み合わせた研究を行いました。「玄米および発芽玄米の機能向上に関する研究」にて博士を取得しました。

・種皮褐色遺伝子 Rc が玄米の抗酸化能に及ぼす影響，共著，育種学研究（9巻3号）97-102頁

・Comparison of the free amino acid content and certain other agronomical traits of germinated and non-germinated brown rice in monocultured and mixed plantings, 共著，SABRA JOURNAL of BREEDING and GENETICS（39巻2号）107-115頁 などです。

**静岡英和学院大学短期大学部食物学科 | 2010-2020**

短期大学にて主に「食品学」、「食品加工学」、「食品学実験」を担当し、栄養士養成のための講義や実験・実習を行いました。静岡大学農学部との単位互換による「農と食の連携」を栄養士教育に取り入れました。研究では、教科書の執筆（食品学・食品学実験）や、静岡在来作物研究会（副会長）のメンバーと在来作物の新たな価値の創造に関する研究を行いました。地域連携では、市内中山間地の農家や旅館との食に関するプロジェクトを5年間継続しました。

・基礎から学ぶ食品化学実験テキスト，共著，(株)建帛社（2014）

・コンパクト食品学，共著，朝倉書店（2015）

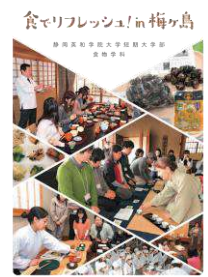
・Effect of late nitrogen fertilizer application on free amino acid content in brown rice and germinated brown rice, 共著，静岡英和学院大学紀要 第14号 167-180頁 などです。



かぼちゃ供養の調査



焼畑の調査



中山間地との連携

## 資格 | 特技 | 学位 | 研究テーマ

【資格】看護師・助産師・栄養士・管理栄養士・調理師 【特技】パン作り

【学位】博士（農学）【研究テーマ】・在来作物の現状と継承に関する研究

・野菜を用いた災厄封じに関する研究・久能石垣いちごの学際的研究など

## 担当授業科目

<大学> フレッシュマンセミナー・食文化論・6次産業化実践論

食品加工実習・経営実習・経営分析演習・プロジェクト研究

<短大> 食品加工演習・営農と農業関連法（オムニバス）

まつお かずゆき  
松尾 和之

【生産環境経営学部】



matsuo.kazuyuki あつと spua.ac.jp



## アピールポイント

「データ駆動型」という言葉がはやっていますが、私は「現象駆動型」の人間で「不思議」があれば専門の垣根も気にせず首をつっこむ癖があります。

## キーワード／専門分野

作付体系／家畜糞／耕起・

播種法／種子休眠

## 主な研究分野／活動実績

### 農林水産省・東北農業試験場 | 1980-1988

「寒冷地における雑草発生生態と防除」寒冷地畑雑草種子の休眠覚醒過程・発芽特性などの発生生態と、畑作物における雑草害の早期推定法に関する研究を行った。

### 農林水産省・農業研究センター | 1989-1998

「環境負荷軽減のための作物配置と家畜糞の機能」家畜糞連用条件下での土壌窒素蓄積と窒素放出特性を明らかにし、窒素回収における作物配置（多毛作化）の重要性を示した。また、家畜糞によるダイズシストセンチュウの孵化促進現象を見出し、家畜糞施用と宿主不在と組み合わせた新たなセンチュウ防除法を提示した。

### （独）農研機構・中央農業研究センター | 2003-2010

「耕起播種法改善による水田輪作ダイズの安定生産」水田輪作ダイズでの湿害回避の方策として、小明渠作溝・浅耕同時播種法を開発した。また、大規模化する水田輪作経営向けの携帯型 GPS を利用した作業履歴記録技術の開発を行った。

### （独）国際農林水産業研究センター | 1999-2002 ; 2011-2019

「東北タイ砂質土壌の生産力改善」大型機械利用や単・連作を特徴とする東北タイサトウキビ生産での硬盤層形成や土壌有機物減少による生産力低下を明らかにした。その対策として、硬盤層破壊とサトウキビ芽条の植付けを同時に行う作業機の開発や、土壌化学性改善のための深根性飼料作物や家畜糞の効果を明らかにした。

「ラオス中山間農村における水田高度利用」無化学肥料・水稻単作を特徴とするラオス中山間農村水田の高度利用を図る上で、土壌乾燥に伴うアルミニウムの活性化が深刻な問題となることを明らかにした。また、農民が実施するコウモリ糞利用がアルミニウム害の軽減とリン酸富化に有効なこと、ラオスにおいて採取されるコウモリ糞の内容成分には大きな違いがあることを示した。

### 資格 | 特技 | 学位 | 受賞歴 | 研究テーマ

資格：特になし | 特技：新しいもの好き | 学位：農学博士 | 受賞歴：特になし | 研究テーマ：家畜糞を中心とする有機物の機能解明

### 担当授業科目

<大学> 農学概論（オムニバス）、作物学、農林業のための先端技術  
<短期大学> 農学概論（オムニバス）、農林業のための科学

もりぐち たかや  
森口 卓哉

【生産環境経営学部】



moriguchi.takaya あつと spua.ac.jp



## アピールポイント

・果実生理が専門でしたが、本学では、心機一転して研究分野を、社会福祉関係に変更しました。しかし、果実生理等に関係する研究テーマでも、色々ご相談にのることができると思います。

・これまでに発表した全論文は、

ResearGate

([https://www.researchgate.net/profile/Takaya\\_Moriguchi](https://www.researchgate.net/profile/Takaya_Moriguchi)) に記してありますので、ご参照下さい。

## キーワード／専門分野

・子供食堂 ・フードバンク ・農福連携・  
障害者雇用 ・おてらおやつクラブ ・ソー  
シャルファーム ・放課後児童クラブ

## 主な研究分野／活動実績

### 農研機構果樹茶業研究部門 | 1983～2019年

1983年、当時の農林水産省果樹試験場に入省以来（現在は国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構果樹茶業研究部門）、一貫して果樹に関わる研究を行ってきました。その間、果樹遺伝資源の保存法の開発、果実への糖集積機構の解明、果樹への環境ストレス耐性付与等、色々な研究を行いました。後半の10数年は、主に気候変動（温暖化）の果樹への影響として顕在化しつつあるリンゴの果実着色不良やニホンナシの眠り症（自発休眠覚醒不全）、について、これら障害が発生するメカニズムを研究していました。具体的には、「リンゴの果実はどうして秋になると色付くのか?」、「落葉果樹であるニホンナシはどうして冬に発芽せず、春になってから発芽するのか?」、について、生理生化学的な手法で調べていました。また、ニホンナシの花芽分化機構についても研究をしました。2019年4月からは専門員として、自動走行除草機やアシストスーツ、ドローンなどのスマート農機を果樹栽培に適用し、スマート農業を推進するプロジェクトの進行管理に携わっていました。

### 学術活動

・学術雑誌 *Scientia Horticulturae* と *Acta Physiologia Plantarum* の編集委員長、*Plant Physiology and Biochemistry* の編集委員を歴任しました。現在は *PlosOne* の Academic Editor をしています。

### その他の経歴（併任）

・筑波大学教授（2005～2019年）、法政大学非常勤講師（2015～2016年）



### 資格 | 特技 | 学位 | 研究テーマ

学位： 博士（農学） 名古屋大学 1992年

受賞： 1996年度園芸学会奨励賞、2019年度園芸学会学会賞

研究テーマ：「地域の農業・農産物を核とした地域支援に関する研究：社会福祉を通して」

### 担当授業科目

農林業のための生物学、園芸学、園芸学各論、農と食の健康論、技術者倫理、植物生理生態、流通加工論、農と食の健康論

# 大塚 誠

【生産環境経営学部】



otsuka.makoto あつと spua.ac.jp



## アピールポイント

民間養豚場で豚の飼育管理や動物用医薬品メーカーで営業や研究に従事した後、農林水産省所管の研究機関で海外(タイ)での長期在外研究や家畜の飼養衛生管理業務に従事しました。畜産に関わるいろいろな職種や仕事を経験してきました。

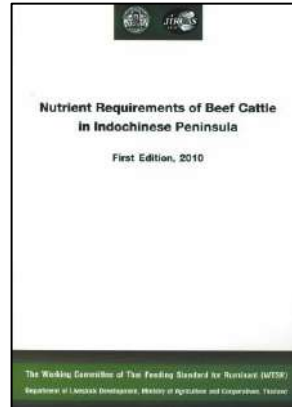
## キーワード／専門分野

- ・家畜
- ・飼養管理
- ・衛生管理
- ・ニワトリ
- ・雌雄鑑別

## 主な研究分野／活動実績

### 国際農林水産業研究センター | H19.7-H23.3

タイのコンケン大学を拠点に、インドシナ半島で飼育されている熱帯種肉用牛の飼育管理マニュアル(飼養標準)を作成する国際共同研究プロジェクト(タイ、ラオス、カンボジアの1政府機関10大学)に従事しました。



熱帯肉用牛の飼養標準



インドシナ半島地域の在来種肉用牛

### 農業・食品産業技術総合研究機構 | H23.4-R2.3

畜産研究部門で飼育されている家畜の飼育管理業務や家畜伝染病の発生を防止するための防疫管理業務に従事しました。また、ヒナの雌雄鑑別を簡易に行える内視鏡鑑別法の開発にもたずさわりました。



内視鏡鑑別機でのヒナの雌雄鑑別

### 資格 | 特技 | 学位 | 研究テーマ

学位：博士(農学)

受賞等：第37回福島県獣医畜産技術総合研究発表会 最優秀賞(H10.7)、タイ国農業協同組合省畜産振興局ならびにタイ国反芻家畜飼養標準作成委員会より表彰盾を拝受(H23.3)、コンケン大学農学部より表彰盾を拝受(H23.3)

研究テーマ：家畜の飼養・衛生管理とニワトリの雌雄鑑別法

### 担当授業科目

家畜衛生学<大学・短大> 生産マネジメント実習Ⅰ・Ⅱ<大学> 圃場実習Ⅱ<短大>

# ないとう ひろたか 内藤 博敬

【生産環境経営学部】



naito.hirotaka あつと spua.ac.jp



## アピールポイント

- ・オゾン水の研究分野では著名
- ・衛生の中でも、微生物、感染症が専門
- ・抗菌、抗ウイルスなど予防スペシャリスト
- ・遺伝子、タンパク質、細胞まで扱ってきた
- ・リスク教育、科学コミュについても精通
- ・小説で奨励賞をもらっていたりする

## キーワード／専門分野

- ・衛生（食品衛生／環境衛生）
- ・微生物／感染症（食中毒）
- ・オゾン、オゾン水、機能水
- ・光触媒等の新しい抗菌技術
- ・予防医学

## 主な研究分野／活動実績

### 日本医療・環境オゾン学会 副会長 | 2013～

環境負荷の少ないオゾン水などの機能水の効用に着目し、消毒消臭のみならず有効活用法についても検討しています。また、電解水などの新しい科学技術の評価法について、検討・開発しています。

・スプレー型オゾン水生成装置の除菌効果評価法の検討，医療環境オゾン研究 Vol.24 No.4, 114-122, 2017

・野菜の保存におけるオゾン水洗浄とオゾンガス保存の相乗効果，医療環境オゾン研究 Vol.25 No.4, 132-141, 2018

### 静岡県立大学 | 1993～2020

海外の農水畜産業では、感染症はもちろんのこと、自動車化等による重金属汚染水が深刻です。ベトナム、インドネシア、タイ、モンゴルなどで、これらの調査、検査体制や対策について研究してきました。

・モンゴル国ウランバートル市周辺の遊牧家畜に対する鉛汚染調査，環境科学会誌, 30 (4), 274-281.2017

### 日本リスク学会 |

感染リスク、疾患リスクなど、リスク、リスク認知の考え方・受け止め方を広く一般に普及させられるよう、リスク教育、リスクコミュニケーションやサイエンスコミュニケーション教育、教育ツール開発を行っています。

・リスク教育のためのリスクリテラシー測定尺度，日本リスク研究学会誌 29 巻 4 号, 243-249, 2020



### 資格 | 特技 | 学位 | 研究テーマ

学位： 博士（学術） 岡山大学 2008

受賞： 日本オゾン協会論文奨励賞 2019

野木菜々子，内藤博敬：「オゾン水による野菜の洗浄効果」

### 担当授業科目

医福食農連携論

食品科学

農と食の健康論

なかやま まさのり  
中山 正典

【生産環境経営学部】



nakayama.masanori あつと spua.ac.jp



## アピールポイント

- ・日本民俗学（『風と環境の民俗』吉川弘文館、『富士山は里山である』農文協などの著作あり）の研究をしてきた。農業用水および遠州の農林業史の調査研究を進めている。
- ・フィールドワーカーであり、地元の国の重要無形民俗文化財「見付天神裸祭」など祭礼研究を進めている。

## キーワード／専門分野

- ・日本民俗学
- ・農業史
- ・農業用水、
- ・民俗調査
- ・民俗誌

## 主な研究分野／活動実績

静岡県立農林環境専門職大学 | 2020 年度～

### <農山村の民俗文化 民俗誌を作る>

農林業が作り出してきた景観、歴史、それは地域社会において根底をなしているものです。伝承を中心とした民俗文化を民俗誌から読み取ることのでその地域の文化を知ることができ、民俗誌を記録することで、それを確認してその価値を発信することができます。磐田市敷地の民俗誌を作成中。



【佐久間の民俗文化】

### <農業用水・遠州平野の農業史>

天竜川下流域の景観は水田稲作がその基盤を作ってきたと言っても過言ではありません。寺谷用水は天竜川左岸下流域に今から 400 年以上も前に作られました。流域に住む人々は天竜川の水の恩恵に感謝しながら水田農耕文化を形成してきました。



【寺谷用水】

【見付天神裸祭】

### <祭り文化、共同体と地域社会>

遠州地方、静岡県、全国には多くの祭りが伝承されています。磐田市見付には国の重要無形民俗文化財「見付天神裸祭」が旧暦に従って現在でも行われています。祭りを行う共同体は、これからの地域社会において、より一層重要な役割を果たしていくことになります。

## 資格 | 特技 | 学位 | 研究テーマ

日本民俗学、人文地理学、民具学 博士（学術）  
研究テーマ：農業用水の民俗、遠州の農林業史、民俗誌

## 担当授業科目

農林業史、農山村田園地域公共学  
農村景域論、歴史学概論



# にわ やすお 丹羽 康夫

【生産環境経営学部】



niwa.yasuo あつと spua.ac.jp



## アピールポイント

失われつつある、各地域で長い年月をかけて育まれ、継承されてきた“もの・こと”の大切さに気づき、そこに最先端の叡智を融合させることにより、豊かで持続可能な社会の実現に向けた取り組みを、人材育成を含め進めております。祭り好き

## キーワード／専門分野

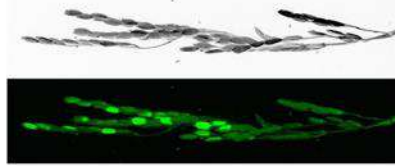
- ・分子生物学
- ・在来作物
- ・バイオテクノロジー
- ・ゲノム系統解析
- ・農林業と伝統芸能・文化

## 主な研究分野／活動実績

静岡県立大学 | 1991年10月～2020年3月

植物への遺伝子導入や植物の緑化制御メカニズムの基礎研究の他、ボストンでの客員研究員をきっかけに、緑色蛍光タンパク質“GFP”を植物で利用できるよう、ハーバード大学の Sheen 博士と共同研究、スイスではプロテオーム研究、在来作物の系統解析、最近では静岡県立大学薬学部の今井先生、中西先生らと、レタスに病原性大腸菌 O157 を撃退する抗体を作らせる共同研究など

植物型GFP遺伝子組換えイネ



遺伝子組換えイネ穂の全体像(上段)  
青色レーザー励起光下におけるGFPによる蛍光像(下段)



静岡市井川の在来作物

### 特許

- 特許第 5871222 号 植物に耐塩性を付与する ABC トランスポーター遺伝子
- 特願 2007-065450 塩耐性形質転換植物体の製造方法
- 特願 2007-018804 柑橘類酵素遺伝子調製方法
- 特願 2006-069547 緑色カルス細胞の製造方法

### その他経歴（期間）

静岡大学理学部 非常勤講師（2008年9月-09年3月）

静岡県農林技術研究所 客員共同研究員（2007年4月-08年3月）

スイス連邦工科大学 客員研究員（2004年3月-04年6月）

マサチューセッツ総合病院 客員研究員（1993年8月-93年11月）

研究活動等の詳細に関しては、researchmap を参照 →



### 資格 | 特技 | 学位 | 研究テーマ

《学位》博士(理学) 《資格》中学校・高等学校教諭免許状(理科)  
《受賞歴》日本植物細胞分子生物学会奨励賞（2001年）日本植物学会特別賞（2005年）日本生物工学会論文賞（2008年）等

### 担当授業科目

- <大学> 分子生物学、生命科学、在来作物学、農学概論、プロジェクト研究、経営分析演習
- <短大> 分子生物学、農学概論

ひらおか ゆういちろう  
**平岡 裕一郎**

【生産環境経営学部】



[hiraoka.yuichiro あつと spua.ac.jp](mailto:hiraoka.yuichiro@spua.ac.jp)



## アピールポイント

林木のゲノム情報や森林の3次元点群データ、多数の試験林データなどを対象に、大規模データ解析や統計モデリングを行ってきました。

## キーワード／専門分野

- ・林木育種
- ・統計遺伝学
- ・森林計測
- ・大規模データ解析
- ・樹木生理

## 主な研究分野／活動実績

(国研)森林研究・整備機構 森林総合研究所林木育種センター |  
2001～2018 年度

### ○ゲノム情報に基づく林木育種に関する研究

長期間を要する林木育種のサイクルを短縮するため、ゲノム情報を用いた育種が期待されています。スギゲノム全体をカバーする大量の DNA マーカー多型から成長、材質、雄花量等を予測する手法を開発しました。

### ○気候変動への適応のための育種に関する研究

化石燃料の使用により高オゾン・高 CO<sub>2</sub> 環境になるといわれています。FACE 内で育成したスギ育種苗の成長や生理応答から、通常は有害な高オゾン下でもスギの成長には大きな影響がないことがわかりました。

### ○3次元計測による森林計測手法に関する研究

森林内において地上型レーザーキャナで取得された3次元点群データの解析手法の開発を進めました。膨大な点群データを高速で処理し、高精度で樹木形質を推定することを可能にしました。



レーザーキャナで計測した試験林の3次元データ

### ○ハゼノキ・ウルシの遺伝育種研究

果実から木蠟（もくろう）を採るハゼノキや漆液を採るウルシの遺伝育種研究を行いました。毎年安定して多収量のハゼノキ品種を選抜しました。また DNA マーカーを利用して、外来樹種といわれる両樹種の過去の移入の歴史を探る研究も行いました。

## 資格 | 特技 | 学位 | 研究テーマ

学位・資格: 博士 (農学)、宅地建物取引士登録 (登録済み)

受賞歴: 日本木材学会論文賞、林木育種研究奨励賞、日本森林学会誌論文賞

## 担当授業科目

主担当: 統計学、生産マネジメント実習 I (林業)、樹木・組織学、森林生態学

分担: 農学概論、県内農林業事情、森林計画学 など

おいしい りゅう  
大石 竜

【生産環境経営学部】



oishi.ryu あつと spua.ac.jp



## アピールポイント

農業改良普及員として積極的に経営改善に取り組んでいる生産者の皆さんの姿を見てきました。この経験を糧に、教育・研究の両面で、経営向上に役立つ成果を出していきたいと考えています。

## キーワード／専門分野

- ・野菜
- ・イチゴ
- ・経営管理
- ・法人化
- ・生産管理

## 主な研究分野／活動実績

### 静岡県立農林大学校・農林環境専門職大 |2019～

農林大学校では施設野菜のイチゴ、露地野菜のオクラ、レタス等、幅広く野菜の栽培指導を行ってきました。

#### 研究テーマ「イチゴの草勢管理手法の検討」

施設園芸においては近年、環境制御技術に注目が集まり、生産現場にも導入されるケースが増えてきています。環境制御はその与えた環境により作物がどのように反応し、状態を維持していくかという草勢管理の考え方と不可分です。しかしながら、イチゴ生産においては、その草勢管理を行うための生育指標や基準といった基礎的な知見が整っているとは言えない状況です。

栽培試験により、現場で取り入れやすい生育指標や草勢管理の考え方を検討していきます。



### 静岡県西部農林事務所 |2015～2018

野菜の普及指導員として、多くの現場に入り、農家と共に仕事をしました。

主な活動として

- ・農業経営戦略に関する経営講座の企画運営
- ・外部専門家等の活用による農業経営法人化の支援
- ・外部専門家等の活用による農産物加工工程の効率化
- ・大型機械整備による大規模効率型農業のモデルケース創出

### 資格 | 特技 | 学位 | 研究テーマ

- ・ 博士（農学）
- ・ 農業改良普及員資格

### 担当授業科目

<大学> 総合実習、圃場実習、生産マネジメント実習Ⅰ、Ⅱ  
農林業経営学、環境と農林業、経営実習Ⅰ、Ⅱ ほか  
<短大> 総合実習、圃場実習Ⅰ、圃場実習Ⅱ

おおた さとし  
太田 智

【生産環境経営学部】



ohta.satoshi あつと spua.ac.jp



## アピールポイント

「農福連携」に関する研究は始めたばかりですが、様々な分野の先生と共同で、「農福連携」の推進に役立つ幅広い研究を行いたいと考えております。どうぞ宜しくお願い致します。

## キーワード／専門分野

- ・農福連携
- ・果樹
- ・遺伝育種、系統分類

## 主な研究分野／活動実績

### 農福連携推進研究 ～共に生きる～

「農福連携」の研究を始めました。「農福連携」とは、人材不足が深刻な農業と、雇用機会が不十分な福祉とが連携する取り組みです。近年、全国的に取り組みが拡大し、ウイン-ウインの関係を築いた成功事例が数多く認められてきています。しかしながら、科学的な分野から「農福連携」を推進するような研究は行われていません。そこで私は、地域共生社会を理想とし、農学の視点から「農福連携」を推進したいと考えています。まずは、農業分野において障害のある方が活躍できる作業を明らかにしたいです。また、異分野の先生のご協力を得て、障害のある方の活躍の場を広げる技術開発等も行いたいと考えています。

2020 年度～ | 静岡県立農林環境専門職大学 生産環境経営学部

### 柑橘の育種および育種技術に関する研究

カンキツ育種や遺伝資源に関する研究開発を行いました。‘はるひ’、‘あすみ’、‘璃の香’などの品種育成に携わりました。オールジャパンでの育種体制の構築にも尽力しました。研究面では、木本植物におけるダイレクト PCR 法の開発、DNA マーカーを利用したグラフィカルジェノタイプに基づく戻し交雑育種の効率化、抗ウイルス剤を用いた無毒化法の効率化、温州みかんの両親の特定などを行いました。

2006 年度 | 静岡大学大学院 農学研究科

2007～2019 年度 | 農研機構 果樹茶業研究部門

### 桜の系統分類学的研究

日本産サクラ属サクラ亜属植物の系統分類学的研究を行いました。DNA 分析により、日本に自生する野生種 10 種がどのように系統分化してきたかを探り、日本産サクラ亜属野生種の系統樹を世界で初めて作成しました。また、伊豆地方にみられる‘河津桜’などの地方品種群の由来や類縁関係についても研究しました。

2001～2002 年度 | 静岡大学大学院 農学研究科 (学生)

2003～2005 年度 | 岐阜大学大学院 連合農学研究科 (学生)

### 資格 | 特技 | 学位 | 研究テーマ

- ・博士 (農学)
- ・日本育種学会 2016 年度論文賞 (共著)
- ・日本果汁協会 技術奨励賞 (共著)

### 担当授業科目

- ・生命科学
- ・植物遺伝育種学概論
- ・生産マネジメント実習 I (栽培) など

さだひろ めぐみ  
貞弘 恵

【生産環境経営学部】



sadahiro.megumi あつと spua.ac.jp



## アピールポイント

これまで畜産現場で発生する豚の大腸菌症や牛・豚のサルモネラ症など、腸管感染症の調査研究、現場対応に当たってきました。

その経験をもとに「下痢症から子豚を守る」をテーマに研究を進めています。



## キーワード／専門分野

- ・サルモネラ、病原性大腸菌
- ・薬剤耐性
- ・腸内腸外細菌叢

## 主な研究分野／活動実績

### 静岡県中遠農林事務所 家畜衛生課 | 5年間

高病原性鳥インフルエンザ、口蹄疫、豚熱など、畜産業に甚大な被害をもたらす家畜の伝染性疾病の発生予防及びまん延防止のための検査や発生時に備えた防疫対策に携わりました。

### 静岡県志太榛原農林事務所 家畜検査課（細菌病担当）

| 4年間

県下で発生する家畜伝染病の診断や原因究明のための臨床検査や細菌学的検査を実施し、細菌性疾病に関する調査研究を行いました。

「県内で分離された豚丹毒菌の細菌学的検討および農場におけるワクチン接種の現状」

平成 12 年に豚コレラワクチンが中止されたのに伴い豚丹毒ワクチンも中止する養豚農家が増加し豚丹毒の発生が懸念されている中、急性敗血症型豚丹毒および関節炎型豚丹毒の集団発生事例が発生。原因菌の細菌学的特徴を検査するとともに、あらためてワクチンの重要性を伝えるため県内養豚場の抗体調査を実施した。

「多剤耐性 Salmonella O4:i:-による牛サルモネラ症発生事例と薬剤耐性遺伝子の解析」

県内の酪農家において発生した牛サルモネラ症の原因菌を分離同定。その細菌学的特徴と耐性遺伝子について明らかにした。

【豚丹毒】



【牛サルモネラ症】



### 資格 | 特技 | 学位 | 研究テーマ

資格：獣医師

普及指導員

JGAP【家畜・畜産物】指導員

### 担当授業科目

- <大学> 総合実習、圃場実習、生産マネジメント実習Ⅰ、Ⅱ  
企業実習、家畜生理解剖、GAP 演習、資源循環型農林業論  
プロジェクト研究
- <短大> 総合実習、圃場実習Ⅰ、圃場実習Ⅱ、GAP 演習

ながふじ あきひこ  
長藤 亮彦

【生産環境経営学部】



## 主な研究分野／活動実績

### 静岡県立農林大学校掛川機械研修場 | 2003～2005

農林大学校の学生と一般農業者を対象に、農業機械基本研修、農業機械士研修、農作業安全研修等の機械研修を実施しました。トラクターの運転操作方法、作業機の取り扱い、農作業安全の講義及び実習と、大型特殊(農耕車限定)等の運転免許取得を指導しました。



nagafuji.akhiko あつと spua.ac.jp

### 静岡県立農林大学校 | 2009～2010

園芸学科野菜コースの担任として、野菜の栽培管理や収穫調製、販売などを教えました。個性豊かな学生たちを相手に、勉強だけでなく生活指導や進路指導なども行い、社会人として通用する資質を身につけて卒業するように気を配りました。



### 静岡県経済産業部農業振興課 | 2011～2014

農業革新専門員として普及指導活動を推進しました。また、普及指導員研修の指導、人材育成計画の策定、国と府県が連携した「普及指導員のためのOJTマニュアル」の作成などに携わりました。

2011年の台風被害を受けて、施設園芸の強風対策に取り組み、「強風対策技術導入マニュアル」を作成しました。

## アピールポイント

これまで担当してきたことが多岐にわたり、何が専門なのか分からないのですが、今、ここにある「機械研修」の道を究めるよう精進します。

### 静岡県農林技術研究所 | 2017～2020

重点研究課題の「ビジネス経営体の育成支援策の提案」における農業経営の法人化、組織育成、人材育成についての研究推進及び、「ふじのくに農水産物の輸出拡大技術の開発」における輸出振興策の検討と開発技術の経済性について研究を行いました。

### 資格 | 特技 | 学位 | 研究テーマ

専門技術員(H14)、普及指導員、教諭免許 高校(理科、農業) 中学(理科)、運転免許 大型特殊 けん引(農耕車限定)、フォークリフト 運転技能講習修了、農業機械利用技能検定員

## キーワード／専門分野

トラクターの構造と機能、運転操作、農作業安全、大型特殊免許、けん引免許

### 担当授業科目

<大学> 大型機械実習Ⅰ、大型機械実習Ⅱ、農業気象学(分担)  
<短大> 大型機械実習

# 藤代 薫

【生産環境経営学部】



fujishiro.kaoru あつと spua.ac.jp



## アピールポイント

企業経験を生かし、社会情勢を踏まえた現実味のある教育を心掛けています。また、木材や化学の知識を生かし、様々な角度から木材、木質材料、特用林産物の新たな可能性を検討しています。

## キーワード／専門分野

- ・木材接着
- ・木質材料
- ・木材切削
- ・振動特性
- ・セルロースナノファイバー

## 主な研究分野／活動実績

### ヤマハ株式会社 | 2006-2022

材料・化学系の技術者として様々な楽器や音響機器の接着仕様、木材の切削加工、木材の虫害管理、海外工場の工程監査、木材調達などの業務に従事。

### 岐阜大学大学院連合農学研究科 | 2017-2022 (社会人長期履修制度)

セルロースナノファイバーの添加による水性高分子-イソシアネート系接着剤 (API) の接着性向上に関する研究に従事。セルロースナノファイバーは、木材のパルプ等から作られるナノサイズの幅を持つ天然繊維で、軽く高強度で熱膨張しにくい。API は、建材などの木材に広く用いられる水性接着剤で、シックハウス症候群の原因となるホルムアルデヒドを含まない。

上記と並列でガラス転移点 ( $T_g$ ) の異なるアクリル樹脂エマルジョン (AE) を用いた制振性木質材料の研究開発に従事。 $T_g$  は、硬い樹脂が柔らかくなり始める温度のことで、制振性に強い影響を及ぼす。AE は、合成に多種多様なアクリルモノマーを用いることで、その物性を容易に調整できる。



セルロースナノファイバーの凍結乾燥



成形前の木質材料(パーティクルボード)

### 農林環境専門職大学生産環境経営学部 | 2022-

木材接着や木質材料に関する研究に加え、木材の物性や成分、特用林産物に関する研究を進める。

### 資格 | 特技 | 学位 | 研究テーマ

学位：博士（農学）岐阜大学

資格：甲種危険物取扱者

受賞：日本接着学会ポスター賞、日本木材学会中部支部大会優秀賞

所属学会：日本木材学会、日本接着学会

### 担当授業科目

大学：木質科学概論、総合実習

短大：演習林実習 I・II、総合実習

# 短期大学部



たけうち たかし  
竹内 隆

【短期大学部】



takeuchi.takashi あと spua.ac.jp



## アピールポイント

野菜の育種・栽培技術に関する領域、特にイチゴに関する領域を専門とします。次世代の担い手に対し、現場で活躍できる資質を短期間で習得できる教育法の確立に向け、試行錯誤しています。イチゴの育種手法や栽培技術・普及指導方法についての相談・対応は可能です。よろしくお願ひします。

著書：イチゴ「一歩先を行く経営と栽培」(社)全国農業改良普及協会、「農業技術大系野菜編第 32 号追録」農文協、「最新農業技術 野菜 vol.5」農文協、「イチゴ大事典」農文協 (いずれも分担執筆)

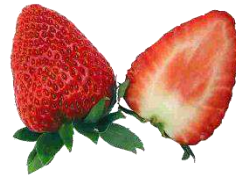
## キーワード／専門分野

イチゴ、野菜、育種、品種、栽培

## 主な研究分野／活動実績

### 経歴(所属／職務)

- ・静岡県浜松市出身(1957)
- ・岡山大学農学部園芸学科(1976～)花き研：カーネーション栄養診断
- ・種苗会社(1980～)花き種苗増殖、交配、採種
- ・静岡県中遠農業事務所(1981～)牛群改良・乳質改善事業事務
- ・同農業試験場施設部(1983～)農作業改善・機械化研究
- ・同西部農林事務所(1986～)花き・緑花木の農業改良普及員
- ・同農業試験場生物工学部(1989～)イチゴ、トマト等育種栽培研究
- ・同農林技術研究所新品種開発部(2007～)イチゴ、ネギ等野菜の育種栽培研究
- ・同農林技術研究所育種科(2010～)イチゴ育種栽培研究、科総括
- ・同県庁みかん園芸課(2013～)野菜・花き農業革新支援専門員
- ・同農林技術研究所(2015～)ラッキョウ育種、野菜・花き・作物の育種栽培研究統括
- ・同農林大学校(2018～)園芸学科/野菜コース /イチゴ専攻担任



「紅ほっぺ」



「きらび香」

### 主要な研究実績

- 1 新品種育成
  - ・イチゴ「けいきわせ」：平成 14 年 7 月 10 日 10370 号
  - ・イチゴ「紅ほっぺ」：平成 14 年 7 月 10 日 10371 号
  - ・ネギラッキョ「NR 静育 1 号」：平成 28 年 11 月 17 日 25502 号
  - ・イチゴ「きらび香」：平成 29 年 2 月 6 日 25594 号
- 2 遺伝育種・栽培研究
  - ・イチゴ品種の果房特性と収量関連要素との関係及び遺伝性
  - ・イチゴの花房連続出蕾に関与する生育特性の解明と品種間差異
  - ・イチゴ極早生系統を利用した低コスト多様作型創出の可能性
  - ・イチゴ・花芽未分化定植がイチゴの生理・形態反応に及ぼす影響

### 資格 | 特技 | 学位 | 現在の研究テーマ

資格：大型特殊(農耕車)、普及指導員、農学士  
受賞：職員表彰(静岡県知事 H15、H27)、農業技術功労者表彰(農林水産技術会議 H28)、功労者表彰(静岡県野菜振興協会 H29)  
現在の研究テーマは、「イチゴ栽培技術の可視化による教育的効果に関する研究」です

### 担当授業科目

<短大> 静岡学、野菜栽培、施設園芸、県内農林業事情(オムニバス)、営農と農業関連法(オムニバス)、プロジェクト研究  
<大学> 技術者倫理(オムニバス)

いなば ぜんたろう  
稲葉 善太郎

【短期大学部】



inaba.zentaro あつと spua.ac.jp



## アピールポイント

地域特産花きを中心に栄養繁殖性花きの新品種開発、温度、光条件等による生育制御技術を研究しています。

近年は全国の試験研究機関、カーネーション生産者と連携して夜温管理、LED 補光技術の開発実証に力を入れています。

## キーワード／専門分野

花き、果樹、ワサビ、育種、新品種開発、園芸、栽培、開花調節、

## 主な研究分野／活動実績

### 所属 | 在職期間

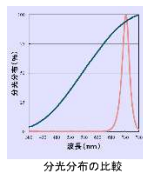
静岡県柑橘試験場伊豆分場（1990年4月～1992年3月）  
静岡県農業試験場南伊豆分場（1992年4月～2007年3月）  
静岡県農林技術研究所伊豆農業研究センター  
（2007年4月～2012年3月、2017年4月～2020年3月）  
（主要な研究テーマ）

地域特産作物の新品種および栽培技術開発

研究品目：ヒュウガナツ、マーガレット、キンギョソウ、カーネーション、ワサビ  
（研究業績）

静岡県庁 静岡県職員表彰 マーガレットの品種育成（2005年3月）  
キンギョソウの栽培技術および作型開発に関する研究（岐阜大学博士論文）（2008年3月）  
（一社）園芸学会 園芸功労賞 マーガレットの育種と生産振興への貢献（2017年3月）  
農水省・（公社）技術普及協会 農業技術功労者表彰 花色と香気に特色のあるマーガレット品種群の育成と産地振興（2018年12月）  
（論文、著書等）

原著論文：13 報、研究報告：13 報、単行本（共著）：14 報執筆



分光分布の比較



白熱灯 遠青色LED

LEDによるキンギョソウの開花調節



マーガレットの属間雑種  
新規花色、芳香性品種



ワサビ苗の夏季育苗

（学会活動等）

園芸学会評議員、園芸学研究編集委員、マーガレット品種登録審査基準改定委員、キンギョソウ品種登録審査基準改定委員  
花き知財輸出研究会委員、オランダ国際園芸博覧会政府出展委員  
MPS-ABC 日本基準設定委員、（一社）園芸学会代議員

### 資格 | 特技 | 学位 | 研究テーマ

博士（農学）、高校教諭（理科、農業）、普及指導員  
研究テーマ：マーガレットの生育特性解明、カーネーションの冬季夜温管理および LED 補光技術の開発、鉢物用花きの生育制御技術の開発

### 担当授業科目

花き栽培、植物遺伝育種学概論、土壌肥料・植物栄養学  
農学概論、圃場実習 I II（花き）

# かたやま のぶや 片山 信也

【短期大学部】



katayama.nobuya あつと spua.ac.jp



## アピールポイント

生産者の方々と同じ目線で仕事をさせていただく事を心掛けてきました。「何事も、まずは体を動かす所から始める」がモットーです。

今は、学生さんと、一緒にフットワーク良く、そして何より楽しく勉強し、実践優先で動きまわりたいと思っています。

## キーワード／専門分野

- ・発酵飼料 発酵食品
- ・堆肥調製・品質評価
- ・ヨーネ病防疫 草地造成 アシストスーツ
- ・地域ブランド
- ・耕作放棄地の畜産利用 等々

## 主な研究分野／活動実績

### 静岡県畜産試験場 | 1986-1997

#### 食品製造粕類の飼料価値評価研究

現在、エコフィードとして活用される各種食品製造粕類の飼料価値や迅速分析法を 4 県共同で研究。得られたデータは日本飼養標準成分表(牛)にも掲載されています。

#### サイレージ用乳酸菌・添加剤研究

飼料保存に用いられる各種添加剤の特性を整理したマニュアルは、全国的に利用されました。また、農水省ジーンバンク事業に参加し、タイで高温環境下でも優勢増殖する乳酸菌を複数分離しました。

### 静岡県東部家畜保健衛生所 | 1997-2003

#### ヨーネ病防疫の研究

牛の重要伝染病:ヨーネ病の主要感染経路であるふん便→経口感染を防ぐため、ヨーネ菌汚染飼料の各種消毒法を研究しました。その結果は、第9回国際ヨーネ病学会(スペイン)で発表しました。

### 静岡県畜産技術研究所 | 2003-2018

#### フトンによる堆肥腐熟度迅速評価法研究

手間と時間のかかる堆肥腐熟度の判定技術を、県内企業と共同でフトン(光子)活用型迅速評価法として完成させ特許を取得しました。成果は農業技術大系にも紹介されています。

#### コマツナ発芽検定法の標準化研究

簡易な堆肥腐熟度評価法として利用されるコマツナ発芽検定法の標準化条件を整理しました。

#### 酪農作業省力化研究

高齢化の進む酪農業界に必須の軽労化の重点ポイントを探るためバイオメカニカル的に労働負荷を調査し、あわせて市販の農業用アシストスーツの酪農作業適応性と課題を明確化しました。

#### 草地景観と地域ブランド畜産物研究

6 次産業化に欠かせない生産物のブランディングを地域の観光施設と共同で研究し、成果を反映した商品を作りました。その他、オリジナル乳酸菌を活用したヨーグルトも市販化しました。

### 資格 | 特技 | 学位 | 研究テーマ

博士(獣医学)、普及指導員、食品衛生管理者

研究テーマ ≡ 面白そうな事全部

(機械いじりと物作りも大好きです!)

### 担当授業科目

<短期大学部> 畜産学概論、飼料総論、家畜飼養、県内農林業事情、畜産環境・堆肥利用論、環境保全型農業論、プロジェクト研究

<大学> 環境保全型農林業論、技術者倫理

こばやし しんいち  
小林 信一

【短期大学部】



## 主な研究分野／活動実績

### 所属 | 在職期間

神奈川県出身（1951）

宇都宮大学農学部畜産学科、大学院修士課程農業経済学専攻  
名古屋大学大学院博士課程農学研究科（1976-80）

オーストラリア・シドニー大学留学（1978-80）

全農飼料畜産中央研究所、本所畜産経営対策室（1980-87）

（コンピュータによる畜産経営診断システムの開発と普及・経営分析）

オーストラリア国立大学豪日研究センター（1987-89）

日本大学農獣医学部畜産学科（生物資源科学部動物資源科学  
科）（1989-2020）

### 主な研究テーマ

#### 1. 畜産酪農政策

「日本酪農への提言」小林信一編 筑波書房 2009年

「酪農乳業の危機と日本酪農の進路」小林信一編 筑波書 2011年

#### 2. 酪農・畜産の生産基盤に関する研究—特に農地の畜産的利用

「日本を救う農地の畜産的利用—TPPと日本畜産の進路」小林信一  
編 農林統計出版 2014年

#### 3. 新規就農と経営支援組織に関する研究

「海外の酪農経営支援の実態」、『経営支援』酪農総合研究所  
2001年

#### 4. オーストラリア畜産に関する研究

「全農「株式会社化」の意味するもの—オーストラリアにおける酪農協同組  
合「改革」の顛末に学ぶ」、『地域を支える農協—協同のセーフティネット  
を創る』コモンズ 2017年

「オーストラリアの肉牛産業」、『肉用牛の科学』入江ら監修 養賢堂  
2015年

#### 5. 野生鳥獣—特に鹿の資源的利用に関する研究

「野生生物の利用管理」小林信一編 龍溪書舎 2015年

「世界における養鹿業の展開」小林信一ら、『日本鹿研究』No.10 全日  
本鹿協会 2019年



kobayashi.shinichi あつと spua.ac.jp



### 専門分野

畜産経営学、畜産政策、野生動物管  
理・利用論

### 所属学会／社会活動

畜産経営経済研究会（会長）、酪農  
乳業史研究会（副会長）、全国山羊  
ネットワーク（世話人）、ヒトと動物の関  
係学会（監事）身体障害者補助犬学  
会（監事）、NPO 馬頭農村塾（副理  
事長）、全日本鹿協会（副会長）、  
（社福）藤沢育成会（評議員）、全  
農酪農経営体験発表会（審査委員  
長）、J ミルク乳の社会文化ネットワ  
ーク（幹事）、関東生乳販連酪農教育フ  
ォーム推進委員会（委員長）他

### 資格 | 特技 | 学位 |

農学博士、家畜人工授精師、大型特殊免許（農耕車限定）、教員  
免許（農業1級）、農業改良普及員、狩猟免許（銃猟、罟猟）、

### 担当授業科目

<短大> 畜産法規、畜産経営、野生鳥獣管理・利用論、海外農林業事情、  
圃場実習Ⅱ（大家畜）、圃場実習（中小家畜）、プロジェクト研究、

<大学> 技術者倫理、畜産法規、野生鳥獣管理・利用論、農林業経営学

こんどう あきら  
近藤 晃

【短期大学部】



## 主な研究分野／活動実績

静岡県森林・林業研究センター | 2006年～2017年

上記在職中に取り組んだ、主に物質循環系の研究について、以下に2課題を紹介します。

### ① スギコンテナ育苗における施肥が成長と養分動態に及ぼす影響

コンテナ苗は用土、肥料および水による栽培であるため、育苗には樹種ごとに養分要求量を求め、それに応じた肥培管理が重要です。本研究ではスギ2年生コンテナ育苗における1生育期間の水利用と施肥に伴う苗木の物質生産並びに養分含有量の動態を推定しました。その結果、約2800mmの灌水量に対して水利用率は26%でした。現存量や主要養分(窒素、リン酸およびカリ)の吸収量は施肥量の多寡に影響し、過剰な施肥量では養分吸収量が低下しました。基肥は苗木の養分吸収と培地からの溶脱により経時的に減少し、施肥量が多いほど養分の流亡量が大きく、成長が良い施肥設計の肥料利用率はN:36%、P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>:20%、K<sub>2</sub>O:31%でした。(中部森林研究 65, 2017)

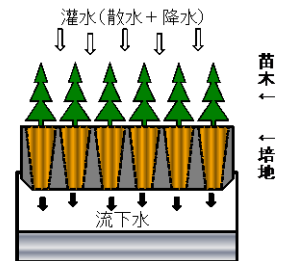


図-1. コンテナ育苗における養分動態の模式

### ② フェロシアン化鉄(紺青顔料プルシアンブルー)の施用が土壤からコナラ苗木への放射性セシウム移行に及ぼす影響

フェロシアン化鉄(プルシアンブルー(PB))施用が土壤からコナラ樹体への放射性セシウム(Cs)移行に及ぼす影響を検討しました。ワグネルポットを用い、Csを含む土壤1L当たりPB0.1g土壤混合、PB1.0g土壤混合、PB1.0g土壤表面散布および無施用(対照)の4水準で2年生コナラ苗を1生育期間、灌水等に伴うCsの系外流出がない閉鎖系で育苗した結果、根系を含むコナラ樹体全体に含まれるCs濃度はPB施用区が対照区より低く、土壤からコナラ樹体へのCs移行係数は、PB施用区が0.11~0.15で対照区より有意に低く、PB施用がCs移行の低減化に有効であることが認められました。(日本緑化工学会誌 40, 2014)



kondo.akira あつと spua.ac.jp



## アピールポイント

木材生産の増大に伴い、主伐再造林面積が増大しています。戦後の拡大造林等による大面積皆伐の弊害を繰り返さないために、生態学的知見を駆使して、合自然で持続可能な森林管理を目指す必要があると考えています。

## キーワード／専門分野

林業用苗木の育苗技術、苗木の耐凍性および耐乾燥性の評価、林木の物質生産および養分動態、植付等造林初期の保育技術 他

## 研究テーマ

(これまでに取り組んだ分野)

- ① コンテナ苗の育苗技術、低コスト再造林技術等の育林全般
- ② 荒廃森林の土壤侵食等森林保全
- ③ スギ、ヒノキ精英樹の次世代化と特性評価

(今後、関心がある分野)

- ① 主伐(特に全木集材による皆伐)の短伐期化と立地への影響について、物質循環の視点から持続可能な森林管理を考えること。
- ② 小中学校の総合学習の時間等で展開された森林(環境)教育と林業への関心(就業等)との関係を考えること。

## 担当授業科目

<短大> 造林学、林業経営、森林計画学\* 他

<大学> 造林学、森林計画・政策論\*、木材生産システム\* 他

\*オムニバス講義

すぎやま やすゆき  
杉山 泰之

【短期大学部】



sugiyama.yasuyuki あつと spua.ac.jp



## アピールポイント

果樹研究センター勤務時は主にカンキツの栄養診断、土壌肥料の研究に従事していました。

県庁でGAPの業務に携わり、その重要性を理解しました。大学では全ての学生にGAPを教えます。卒業後は生産現場でGAPを実践できる生産者や社会人になってもらいたいと思います

## キーワード／専門分野

- ・果樹
- ・栄養診断
- ・土壌肥料
- ・GAP

## 主な研究分野／活動実績

所属 静岡県果樹研究センター | 平成8～14年、17～21年

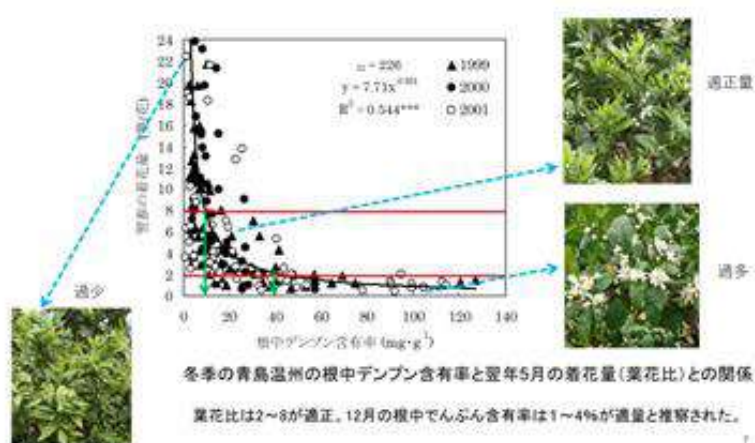
○果樹の簡易栄養診断技術の開発

・果樹の貯蔵養分の栄養診断指標であるでんぷん含有率を簡単に測定できる「ヨウ素比色法」を開発し、県内のモデル的な柑橘園（30園地）の栄養診断を行った。

・みかんの葉柄中の硝酸イオン濃度から簡単に栄養診断する方法を開発し、異なる施肥量で栽培された樹体の硝酸濃度の推移を明らかにした。

○ウンシュウミカンの樹体栄養測定法の確立とそれに基づく高品質、安定多収技術の開発

・「青島温州」における冬季の根中でんぷん含有率と収穫量、翌春の着花量の関係を解明し、適正な着花量になるための根中でんぷん含有率を明らかにした。



○カンキツ「はるみ」「不知火」の樹勢強化に関する研究

・品質が優れているものの樹勢が弱く、隔年結果性が強いカンキツの2品種について、<sup>15</sup>Nトレーサー法により吸肥特性を明らかにした。また、「不知火」について、樹勢強化のための適正な窒素施肥量と土壌改良資材の種類を検討した。

○柑橘における樹体栄養及び土壌のモニタリング手法の開発と有機物施用法の確立

・牛糞堆肥と乾燥鶏糞を肥料の代替資材としての活用方法を検討した。

### 資格 | 学位 | 研究テーマ

JGAP 指導員（農産物）、普及指導員 | 博士（農学） | 研究テーマ：はるみの果皮障害発生原因の解明、みかんの半樹交互結実栽培の実証、GAP 指導方法の確立

### 担当授業科目

果樹栽培、農学概論（果樹部分）、県内農林業事情（果樹部分）、営農と農業関連法（農薬取締法、肥料取締法、有機農業等の環境保全関係制度）、GAP 演習

うがい かずひろ  
鴉飼 一博

【短期大学部】



ugaikazuhiro あつと spua.ac.jp



## アピールポイント

フィールドワーカーです。

南アルプスや白山の高山帯や亜高山帯で調査をしています。

- ・静岡県自然環境保護調査委員会  
現地調査従事者
- ・日本高山植物保護協会（理事）
- ・南アルプス高山植物保護ボランティア  
ネットワーク（事務局）

## キーワード

- ・森林科学
- ・ニホンジカ、高山植物、植生復元
- ・治山、地すべり対策、CIMモデル

## 主な研究分野／活動実績

### 所属 | 在職期間

静岡県庁（林業職）： 1995-2020

### 活動実績

#### (1)南アルプスにおけるニホンジカにより衰退したお花畑の復元について

- ・ニホンジカの生息状況に関する調査
- ・ニホンジカによるお花畑への影響に関する調査
- ・聖平ニッコウキスゲ群落の変遷に関する調査
- ・防鹿柵の設置と維持管理方法の研究
- ・防鹿柵内における植生回復に関する調査

写真上：三伏峠（標高 2600m）

におけるかつてのお花畑の様子

写真中：ニホンジカの採食により  
まるでゴルフ場のグリーンのように  
なってしまったお花畑の様子

写真下：防鹿柵の設置により柵内  
で植生が回復している様子

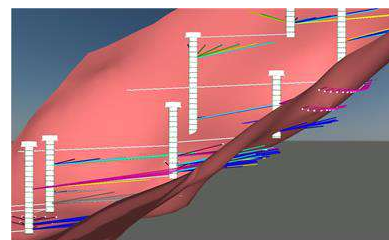


#### (2)南アルプス高山帯の裸地における植生復元について

- ・植生復元方法の研究

#### (3)地すべり CIM（Construction Information Modeling / Management）の活用について

- ・3次元モデルによる集水ボーリングの設計



### 資格 | 学位

資格： 自然再生士

学位： 修士（農学）

### 担当授業科目

<短大> 演習林実習Ⅰ，演習林実習Ⅱ，木材生産システム

<大学> 環境保全型農林業論，木材生産システム，  
生産マネジメント実習

なかね たけし  
中根 健

【短期大学部】



nakane.takeshi あつと spua.ac.jp



## アピールポイント

野菜の品質評価  
貯蔵・流通技術

## キーワード／専門分野

- ・野菜栽培
- ・野菜品質評価
- ・野菜流通技術
- ・野菜鮮度保持技術
- ・野菜貯蔵技術

## 主な研究分野／活動実績

### 静岡県農業試験場園芸部 | 平成 6 年 4 月～平成 10 年 3 月

#### ・野菜の品質評価法の開発

県産特産野菜を対象に非破壊品質評価法（近赤外分光分析法）により内容品質の評価法を開発。

メロン：糖度、トマト：糖度、酸度、イチゴ：糖度、酸度

県内企業と共同で携帯型測定機を開発、実用性評価

### 静岡県農業試験場東部園芸 | 平成 13 年 4 月～平成 16 年 3 月

#### ・イチゴの省力栽培技術

未分化苗利用による省力栽培法を確立した

収量：同等、育苗日数：60 日→7 日、葉数：3.5 葉→1～2 葉

#### ・難防除病害虫の防除法の確立

県東部地域で発生する本ぼでの立ち枯れの原因を特定

原因：定植後のアオドウガネブイブイによる根の食害

発生消長：成虫が苗に産卵→本ぼでふ化→根を食害→枯死

対策：定植時に薬剤を処理することによって、被害を軽減できる

### 静岡県農林技術研究所 | 平成 21 年 4 月～平成 27 年 3 月

#### ・野菜の品質向上技術

2 期作セルリーで花芽分化と品質との関係性を評価し、デイバーナリ利用による花芽分化抑制法を開発した。

エシャレット低温貯蔵期中のカビの発生原因を特定し、入庫前調製、コンテナ改良によりカビの発生を低減した。

消費者が求める葉ショウガの品質・特性を明らかにし、消費者が好む葉ショウガの栽培条件を明らかにした。

#### ・温室メロンの高品質流通技術の実証

温室メロンの貯蔵条件と呼吸・エチレン発生と追熟との関係を明らかにした。15℃以下の貯蔵ではエチレンは発生せず食味が低下する。

貯蔵温度は、20℃～25℃が適し、エチレン処理により香気成分が増加し食味が向上する。

3℃の低温貯蔵、MA フィルム利用等により 1 か月程度、メロンの品質を保持できる。

### 資格 | 特技 | 学位 | 研究テーマ

野菜の省力栽培技術

野菜の品質評価・流通・貯蔵技術

脱石油栽培技術

### 担当授業科目

総合実習

県内農林業事情

圃場実習 I（野菜）、作物栽培



なかの たかゆき  
中野 敬之

【短期大学部】



nakano.takayuki あつと spua.ac.jp



## アピールポイント

JICA の活動をととして、国外での茶生産について興味を持っています。今後は、地球規模の気象変動が茶生産に及ぼす影響について、考えていきたいと思ひます。

## キーワード／専門分野

- ・茶園管理技術
- ・気象災害防止
- ・気象反応特性の解明
- ・生育予測

## 主な研究分野／活動実績

### 世界で NO.1 の茶園管理

緑茶、紅茶、烏龍茶は、加工方法の違いによるもので、原料となる茶葉は全て茶園から収穫されます。茶の生産量は中国とインドが多くを占め、日本は 9 位にとどまっています。しかし、日本には高い茶葉生産技術があり、茶園管理作業については、各国とも日本を目指しているのです。

### 軌条走行式茶園管理装置の開発

茶園内に設置したレール上を電動走行し、自動で茶園を管理する装置を開発しました（写真 1）。本装置を農機具として利用するだけでなく、摘採や整枝などの高さを調節する実験機器として利用し、ミリメートル単位の精度で様々な実験を行い、整・せん枝による枝条管理技術を構築しました。

### 茶園における凍霜害発生メカニズム解明

凍霜害は、茶の安定生産を脅かす重要な災害ですが、茶園の特定部分のみ発生する特徴がありました。実験室における茶芽の気象反応特性を調査するとともに、現地茶園で気象観測を行い、その原因を解明しました。また、送風法等の気象災害防止技術にも取り組んでいます。

### チャ新芽の生育予測

整枝を起点とした茶芽の生育予測法を開発しました（写真 2）。本方法を、広域・高精度で使用する技術開発について検討しています。



写真 1 軌条走行式摘採機

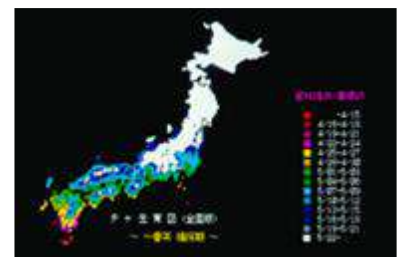


写真 2 一番茶生育予測図

## 学位 | 表彰

- ・農学士（1983）
- ・日本茶業技術協会（現：日本茶業学会）技術賞（2000）

## 担当授業科目

- ・農学概論、圃場実習 I II（茶）、県内農林業事情など

よこた しげなが  
**横田 茂永**

【短期大学部】



## 主な研究分野／活動実績

一般社団法人 J A 総合研究所－ J C 総研（現・日本協同組合連携機構）主任研究員 | 2007 年 1 月－2011 年 12 月

仕事内容は、農協・生協等協同組合組織のシンクタンクの研究員として、農業・農村に係る問題の調査・研究

【著書】

横田茂永『新たなリスク管理と認証制度の構築－放射性物質による食品汚染の現実－』2012 年、筑波書房

和泉真理・横田茂永『JA 総研叢書 6 農業の新人革命』2012 年、農山漁村文化協会

横田茂永『環境のための制度の構築－有機食品の認証制度を中心にして－』2012 年、筑波書房

一般社団法人全国農業会議所専門員 | 2013 年 6 月－2018 年 3 月

仕事内容は、農林水産省からの委託事業（農地集積協力金に係る補助金、農業参入フェア、新規就農支援事例調査）

京都大学「農林中央金庫」次世代を担う農企業戦略論講座特定准教授 | 2018 年 4 月－2020 年 3 月

仕事内容は、次世代の農業経営に関する研究、教育及び普及（シンポジウムの開催）活動を目的として講座運営

【著書】

小田滋晃、横田茂永、川崎訓昭「農業労働力問題をどう解決するか」『グローバル資本主義と農業・農政の未来像』2019 年、昭和堂

小田滋晃、坂本清彦、川崎訓昭、横田茂永編著『「農企業」のムーブメント』2019 年、昭和堂

小田滋晃、横田茂永、川崎訓昭編著『地域を支える「農企業」』2020 年、昭和堂



yokota.shigenaga あつと spua.ac.jp



## アピールポイント

仕事をしてきた農業関係団体の全国連とも連携しつつ、現在の研究テーマに限らず、できることは幅広く対応しながら調査研究を進めていきたいと思えます。

## キーワード／専門分野

- ・農業経済
- ・農業経営、
- ・有機農業、
- ・新規参入
- ・企業の農業参入

## 資格 | 特技 | 学位 | 研究テーマ

学位：博士（農学） 一般社団法人日本協同組合連携機構客員研究員（委嘱） 研究テーマは、有機農業の発展要因、新規就農の支援システム、企業の農業参入の意義など

## 担当授業科目

情報処理演習、農業経営＜短期大学部＞  
食品流通論、コミュニティビジネス論＜生産経営環境学部＞

わたなべ たかゆき  
渡邊 貴之

【短期大学部】



watanabe.takayuki あつと spua.ac.jp



## アピールポイント

代謝プロファイルテストとよばれる手法を用いて、繁殖和牛の栄養状態と繁殖性の関係について研究しております。また、繁殖和牛における繁殖性向上のための飼養管理方法について、研修会や商業誌等で紹介してきました。フィールドで利用できる研究を目指しております。

## キーワード／専門分野

黒毛和種、代謝プロファイルテスト、受精卵移植、放牧、牛繁殖領域における超音波診断

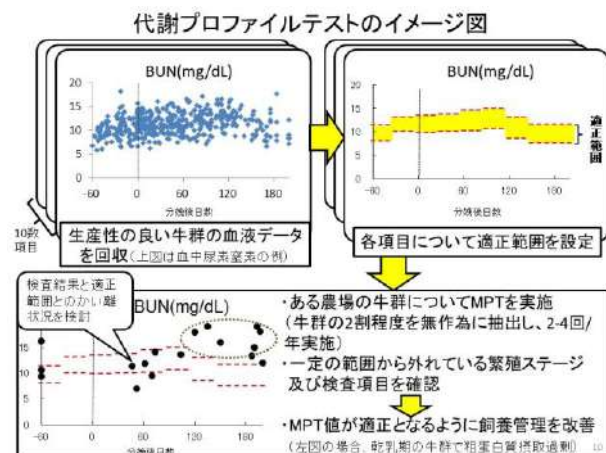
## 主な研究分野／活動実績

### 所属 | 在職期間

1999：農林水産省家畜改良センター入省

2000-2005：家畜改良センター鳥取牧場において、牛受精卵の切断2分離や割球分離による一卵性双子生産、生体卵子吸引に関する研究を実施しました（過剰排卵処理における排卵後の経膈生体卵子吸引がウシ胚生産に及ぼす影響.日本胚移植研究会誌 26.pp73-80.2004）また、黒毛和種雄牛の造成にも携わりました。

2006-2020：家畜改良センター鳥取牧場において、代謝プロファイルテストを利用して、繁殖和牛の栄養状態と繁殖性の関係について研究を実施しました（黒毛和種受胎牛への高蛋白飼料給与が栄養状態と受胎率に及ぼす影響.産業動物臨床医誌(3).pp7-12.2012、繁殖性および発育が良好な黒毛和種繁殖育成雌牛群における代謝プロファイルテストの値.日本畜産学会報 85(4).pp479-485.2014、Influence of feeding methods on blood biochemical parameters of Japanese Black breeding herd. Animal Science Journal91.e13329J.2020等）。



また、これらの研究成果について、研修会等を通じて解説するとともに、マニュアルの作成や商業誌等に連載してきました。

### 資格 | 特技 | 学位 | 研究テーマ

資格：家畜人工授精師（体内・体外受精卵移植師）

受賞歴：日本家畜臨床学会会長賞（2013）

第49回優秀畜産技術者受賞（2014）

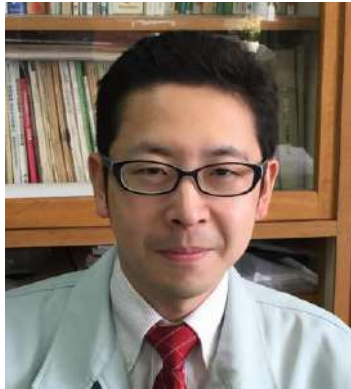
### 担当授業科目

<短大> 家畜育種繁殖学、人工授精論、圃場実習Ⅱ、畜産経営演習

<大学> 家畜育種繁殖学、人工授精論

# いけがや あつし 池ヶ谷 篤

【短期大学部】



## 主な研究分野／活動実績

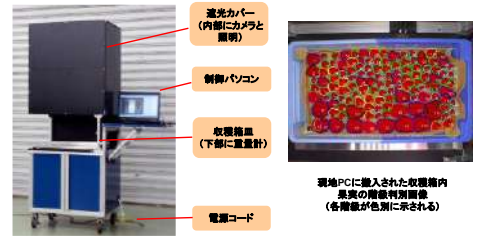
静岡県農林技術研究所 | 2009-2011, 2016-2019

### 【イチゴ生産の機械化にかかわる研究】

イチゴの集出荷を自動化するために、非破壊で糖度を測定する装置や入荷を自動化するための画像処理装置を開発しました。



イチゴの非破壊糖度測定装置



イチゴの入荷自動化装置

### 【農産物の輸出に関する研究】

静岡県産農産物の輸出を推進するための技術開発及び実証試験に取り組み、シンガポールへ計5回の船便による輸送試験を実施し、混載輸送技術を確認しました。



輸出した農産物



コンテナと輸送船



現地での評価

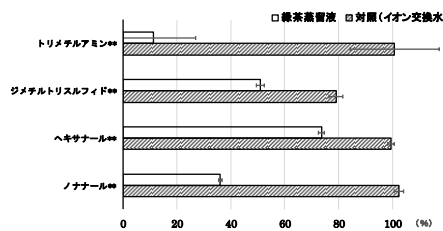


ikegaya.atsushi あつと spua.ac.jp



静岡県工業技術研究所 | 2012-2015

緑茶から抽出した「香り」を病院等で有効活用するための研究を実施し、緑茶の香り成分が「がん」の病臭を抑える効果を明らかにしました。



緑茶の香り成分が病臭を抑える効果



緑茶の香りの病院での活用

## アピールポイント

食品は「おいしい」ものを「楽しく」食べることが大切ですが、食品の「おいしさ」や「楽しさ」には不明なことが多いため、がんばって研究をしています。

特に野菜や果物の貯蔵・加工やおいしさの評価が得意です。

## キーワード／専門分野

【キーワード】

イチゴ、食品加工、官能評価、貯蔵流通、輸出

【専門分野】

食品加工学、調理科学、青果保蔵学

## 資格 | 特技 | 学位 | 研究テーマ

【資格】 高等学校教諭一種免許状（理科、農業）、普及指導員、二級ボイラー技士、第一種衛生管理者

【学位】 博士（食品栄養科学）

【研究テーマ】 生鮮品の“おいしさ”の評価方法の確立

## 担当授業科目

<短大> 食品加工演習、マーケティング・販売演習、プロジェクト研究

いみぎ かおる  
五十右 薫

【短期大学部】



imigi.kaoru あつと spua.ac.jp

kaoru1\_imigi あつと pref.shizuoka.lg.jp



## アピールポイント

静岡県の農業技術職員として、普及・研究・教育の各分野日誌携わりました。専門は切花を中心とした花き栽培。

普及指導員時代は、生産者組織の育成を通して、栽培技術の可視化と生産者間の技術共有に重点を置いた活動を行ってきました。

花きは周年生産が進んでいます。県内の多くの花き生産者と知り合いましたが、生産現場での技術開発や創意工夫に学ぶことが非常に多いと感じています。

## キーワード／専門分野

花き、切花、育苗、開花調節  
増収技術、普及指導

## 主な研究分野／活動実績

### 静岡県農業試験場 | 昭和 60～平成元年度

バラの土層改良による生産性向上や品種比較、導入が始まったばかりのロックウール栽培に取り組みました。また、トルコギキョウや宿根カスミソウなどの草花類の夏期の育苗改善等に取り組みました。

### 静岡県立農林短期大学校 | 平成 2～4 年度

### 静岡県立農林大学校 | 平成 13～16、平成 30～令和元年度

農林短大時代を含めて計 3 回 9 年間にわたって園芸学科花きコース鉢物・切花専攻生計 42 名の実習や卒業論文作成を指導しました。これまで多くの卒業生が静岡県の花き生産の牽引者として活躍しています。

### 静岡県西部農林事務所 | 平成 5～9 年度

県下一の花き産地でキク、ガーベラ等の組織育成に取り組み、主要花きの作業別労働時間を明らかにし、労働改善につなげました。また、現地でのキク栽培基準の作成による技術の平準化に取り組むとともに、ガーベラの品種別生産性を明らかにして収益性向上を図りました。

また、花き生産に大打撃を与えた侵入害虫ミカンキロアザミウマ対策として、物理的防除法等の実証や冬期のキク親株管理対策を地域ぐるみの防除対策を実施しました。

### 静岡県中遠農林事務所 | 平成 19～20 年度

全国で初めてバラに試験導入されたヒートポンプの経済性を明らかにしました。また、夏期夜間冷房の増収効果を明らかにし、暖房費削減以外の利点についても明らかにして普及を図りました。

ヒートポンプ導入は当時試験研究機関でも研究途中でしたが、いち早く行った現地での実証結果を普及指導員の「調査研究」としてまとめ、県産業部長賞を受賞しました。

### 資格 | 特技 | 学位 | 研究テーマ

普及指導員、農学士

研究テーマ:花きの育苗改善

### 担当授業科目

<短大> 総合実習(花き)、圃場実習 I・II (花き)、県外農業事情

営農と農業関連法(オムニバス)、企業実習、プロジェクト研究

<4 大> 総合実習、圃場実習、生産マネジメント実習 I・II (いずれも栽培)



aoyama.toichi あつと spua.ac.jp



## アピールポイント

畜産の普及指導員として、畜産農家と交流し、特に経営改善を重点的に進めてきました。交流のある畜産農家が多数おり、今後、学生の研修先としてお願いをいたします。

## キーワード／専門分野

- ・農業
- ・畜産
- ・養豚、
- ・環境、
- ・加工

## 主な研究分野／活動実績

### 農林環境専門職大学短期大学部 | 令和 2 年 4 月～

主に、総合実習の教材である鶏の飼育施設の整備等を進めてきました。現在、牛、採卵鶏が飼育され、コースに別れた後の圃場実習 I に備えています。

### 中遠農林事務所 | 平成 6 年 4 月～ 平成 11 年 3 月

磐田市内の養豚農家が「磐田市良質堆肥生産組合」を設立し、国の補助事業により、糞尿処理のために、メッシュ資材でできた簡易堆肥器を導入した。国内初の導入のため、技術の確立が望まれていたことから、水分調整の副資材や詰め込み量などを変えた試験区を設定し、堆肥器内の温度変化や水分量の変化、発酵状況等を調査し、詰め込み時の水分を 70%～65%、重量は、500 kg 以下とし、ふんわりと詰めることで、発酵が促進されることがわかり、定例会での各農家からの状況報告や農家を巡回指導しながら技術を普及した。

### 中遠農林事務所 | 昭和 60 年 4 月～ 平成 2 年 3 月

掛川市内の養豚農家を対象に、経営収支のデータを取りまとめ、経営改善に向けた検討会を実施した。その中で、種豚を揃え、共通の飼料を給与することで、品質の優れた肉豚生産を目指すこととなり、掛川市農協の営農指導員と連携し、掛川銘柄豚振興協議会を立ち上げた。主に、年二回の経営検討会の資料作成と当日の進行を担当し、内容は、経営収支、生産性(繁殖・産肉)分析による課題の抽出と改善目標の設定とした。また、産肉性分析に肉豚出荷時のと場枝肉伝票を利用することで、内臓の廃棄部位を疾病発生の要因として追加集計し、家畜保健衛生所の職員と連携して、疾病発生分析と改善を図ることで、養豚農家の経営改善に取り組んだ。結果、県下で初となる銘柄豚「掛川フレッシュポーク」が誕生した。

### 資格 | 特技 | 学位 | 研究テーマ

普及指導員、家畜人工授精士(牛)、毒物劇物取扱責任者、車両系建設機械特別教育修了証、大型・大型特殊自動車運転免許、乙種 1・2・3・4・5・6 類危険物取扱、フォークリフト運転技能講習修了証、甲種火薬類取扱保安責任者、丙種火薬類製造保安責任者、網・わな狩猟免許

### 担当授業科目

新入生セミナー、総合実習、圃場実習 I、圃場実習 II、企業実習、プロジェクト研究、畜産経営演習(中小家畜)

さかぐち りょうすけ  
坂口 良介

【短期大学部】



sakaguchi.ryosuke あつと spua.ac.jp



## アピールポイント

私たちの研究は、農業現場へ直接還元することが重要であると考えています。トマトや養液栽培に限らず、野菜の生産現場で問題となっていることに対し、共に取り組んでいきます。

## キーワード／専門分野

- ・野菜
- ・トマト
- ・養液栽培
- ・土壌
- ・植物栄養

## 主な研究分野／活動実績

### 静岡県立農林大学校・農林環境専門職大 |2016～

農林大学校ではトマトを中心に、野菜の栽培指導を行ってきました。特にトマトについて、夏季高温期の生産技術の向上について学生と取り組んできました。

#### 研究テーマ「トマトの生理障害対策」

トマト栽培においては、夏季高温期を中心に裂果や尻腐果等障害果の発生が多く可販果収量が低下しており、特に高糖度トマト栽培において顕著です。そこで、これらの障害を抑制するため、培地の検討、培養液管理、仕立て方法等草勢管理による栽培管理手法について検討し、体系的な栽培管理指針を作成し、高糖度トマトの安定生産につなげていきます。



### 静岡県富士農林事務所 |2004～2007

### 静岡県中遠農林事務所 |2009～2012

野菜の普及指導員として、多くの現場に入り、農家と共に仕事をしました。

主な実績として

- ・レタストーン栽培における支柱打ち込み機の実証、普及
- ・シロネギの黒腐菌核病の防除法の普及
- ・食育を通じた富士地域における地場野菜の学校給食への活用及び供給システムの構築

### JICA 青年海外協力隊（パラグアイ派遣） | 2007～2009

パラグアイでは、農業学校を拠点に土壌分析技術の向上や農家への土壌分析の普及を行いました。また農家に対し、分析データを活用した施肥技術の指導を行ってきました。

### 資格 | 特技 | 学位 | 研究テーマ

高等学校教諭一種免許状（理科） 普及指導員（農業）

### 担当授業科目

総合実習 圃場実習 営農と農業関連法 県外農林業事情  
GAP 演習 企業実習 プロジェクト研究 生産マネージメント実習

せ と たかひろ  
瀬戸 隆弘

【短期大学部】



seto.takahiro あつと spua.ac.jp



## アピールポイント

理論をかみくだいて説明することはうまくと前職の現場の人や学生に言われました。

また、センサーで計測された牛の反芻データの読み方についてはお役に立てるかもしれません。今後ともよろしく願っています。

## キーワード／専門分野

- ・酪農 予防獣医療
- ・生体モニタリングデータの活用

## 主な研究分野／活動実績

**主な研究分野：動物生産科学（酪農）、獣医学**

**活動実績：**

### 1 経歴

H24-R1 静岡県畜産技術研究所 酪農科

同上 静岡県立農林大学校畜産分校 講師

R2- 現職（畜産コース 講師）

### 2 研究実績

- ・牛の乳房炎（細菌感染による乳房の炎症、乳の変質）の予防に関する研究（H24-25、H29-R1）
- ・牛の乳頭腫症（ウイルスによるイボ）の治療法開発（H26-27）
- ・生乳中の低温細菌（殺菌前の生乳変質に影響）の汚染源調査（H28-29）
- ・牛の反芻モニタリングからの、分娩前後の疾病予測と予防法の開発（H27-29）
- ・緑茶飲水給与による牛への影響調査（H30）
- ・子牛の行動量からの採食行動検知技術の開発（R1）

詳細は <https://researchmap.jp/setotaka> を参照してください。

### 3 教育実績

乳牛の飼養管理全般や乳製品加工について講義、実習を実施し、1～3人/年の学生の卒論指導をしていました。

### 4 その他実績

乳牛の繁殖管理、受精卵採卵、乳房炎管理を主に実施していました。

## 資格 | 特技 | 学位 | 研究テーマ

資格：獣医師、普及指導員（畜産）、ディーラーニング G 検定

特技：獣医の割には数字読むことは得意です（逆に臨床はさっぱりです）。

学位：博士（獣医学）

「シリアンハムスターを用いた効率的なハンタウイルス分離法の開発及びマウスを用いたハンタウイルス感染症の動物モデルの確立」

研究テーマ：

### 1 3D画像を用いた牛の体重推定システムの開発

畜産技術研究所や県内メーカーと共同で現在開発しています。

### 2 反芻データ等を用いた牛群の診断、疾病予測

大規模農場における反芻データ等を現在分析しています。

まだ夢物語なのですが、いわゆる聴診、体温測定等と同じ感覚で、モニタリングデータを診断指標の一つにできないかと模索しています。

## 担当授業科目

<短大> 家畜生理解剖、総合実習、圃場実習Ⅰ、圃場実習Ⅱ、プロジェクト研究



ほしかわ たけし  
星川 健史

【短期大学部】



hoshikawa.takeshi あつと spua.ac.jp



## アピールポイント

林業経営から、木材の加工・流通までを研究した経験があり、総合的な視点で現場の課題解決のお手伝いができたらと思います。また、専門分野のリモートセンシングは近年、ドローンの普及などから大きく用途が広がっており、即戦力としての導入を支援します。

## キーワード／専門分野

- ・林業経営
- ・木材加工
- ・木材流通
- ・リモートセンシング

## 主な研究分野／活動実績

### 静岡県農林技術研究所 森林・林業研究センター | 2008-2019

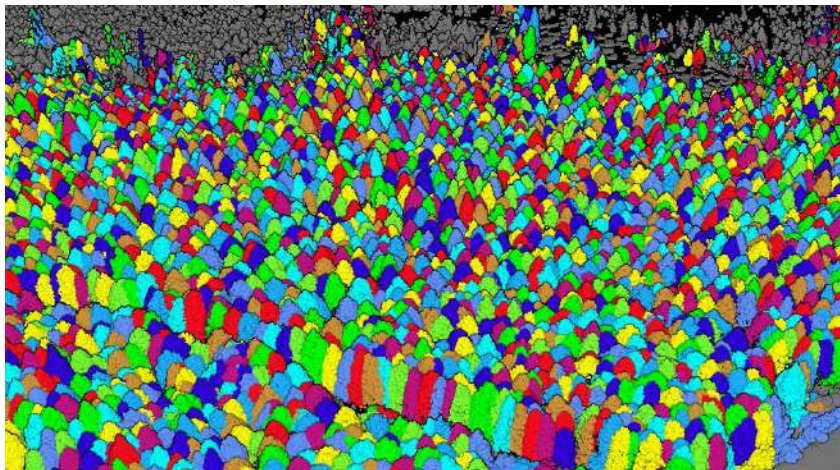
森林組合や木材加工業の方たちと協力しながら、業界の技術革新に直結するような研究をしていました。最近の例では、ドローンを使った森林調査技術を開発し、林業で活用されています。

2018年3月まで、農林水産省のプロジェクトで、無人航空機メーカーと協力して松林への農薬散布・モニタリング技術の開発を行い、そのプロジェクトリーダーを務めました。



### マツ材線虫病（松くい虫）の蔓延したマツ林の空撮画像

2020年3月まで、静岡県新成長戦略研究で、ドローンによる森林資源量の推定技術の開発を行いました。現在、民間企業がその技術を活用してサービスを展開しています。



### 人工林の森林資源量推定のために個体を色分けした状況

### 資格 | 特技 | 学位 | 研究テーマ

名古屋大学大学院生命農学研究科 博士前期課程 修了

### 担当授業科目

木材加工実習・演習林実習 <大学> 生産マネジメント演習 I・総合実習・木材利用流通論・県外農林業事情

ますだ としひこ  
増田 壽彦

【短期大学部】



masuda.toshihiko あつと spua.ac.jp



## アピールポイント

静岡県の農業技術職として、農林事務所、農林技術研究所、農林大学校、県庁に勤務。野菜の現地指導の経験が長く、この経験を活かした教育を目指す。農業関連の事業、指導手法など現地事例を踏まえ授業を展開。

## キーワード／専門分野

- ・野菜栽培
- ・営農指導
- ・普及指導
- ・砂地野菜
- ・スイートコーン栽培

## 主な研究分野／活動実績

### 中遠農林事務所 | 昭和 55 年～昭和 60 年

砂地土壌の特殊性から土壌に肥料をため込む力が少ない。そこで、野菜における緩行性の肥料（ロング）を現地の農業者と試験栽培を実施し、これを踏まえ、各野菜（イチゴ、里芋など）の専用配合肥料をメーカーと共に開発した。

### 農業試験場普及課・県庁農業振興室 | 平成 14 年～平成 20 年

専門技術員として県下の普及指導員に、営農指導としての野菜技術、普及活動の方法、情報の提供などをし、現場の普及活動を支援した。普及指導員の活動を外部（団体や県の職員）に理解してもらうための調査研究内容を発表会の場を設け積極的に発信する活動とした。

### 静岡県農林技術研究所 企画調整部 | 平成 24 年～平成 28 年

農業を始めとする生産現場では、労働力の絶対的な不足が社会全体で問題視されてきた。このため、農林技術研究所において農業ロボット研究会を設立し、農業現場からの機械化やロボット化への要望と、開発する企業とのマッチングを立ち上げた。この研究会は、農業の労働力の現状やロボット化した作業効率への期待が寄せられた。

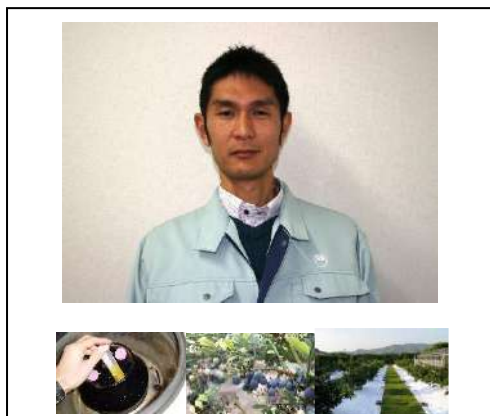
### 資格 | 特技 | 学位 | 研究テーマ

農業改良普及員資格

専門技術員資格（野菜及び芋類）

### 担当授業科目

- 圃場実習（オムニバス）、総合実習（オムニバス）
- 生産マネジメント実習Ⅰ（栽培）、生産マネジメント実習Ⅱ（栽培）



yamaga.ittetsu あつと spua.ac.jp



### アピールポイント



★フルーツファクトリーにチャレンジ



★機械化樹形にチャレンジ

### キーワード／専門分野

果樹栽培、青果物鮮度保持、環境保全



## 主な研究分野／活動実績

### 所属 | 在職期間

短期大学部生産科学科 | 2020年4月～

### 主要なテーマ

#### 🕒 樹が大きくなるには、幼い頃の育成がやっぱり大切

果樹の育ち方にも個性があります。また、枝をどのように配置するので実の付き方が変わってきます。果樹類は樹を植えてから収穫できるまでの期間が長く、大人の樹になってたくさんの実をつけるには、子供のころの育成がとても重要です。私たちは、双幹形仕立て（2本の幹を優先的に育成する方法）や LED 補光、精密な樹体管理技術を通して早期の成木化と安定した果実収量を確保するための研究を行っています。

#### 🕒 ミカンが1個腐ると周りのミカンも本当に腐るのか？

果実は収穫して終わりではなく、消費者に渡るまでに多くの流通経路を経ます。またミカンやリンゴのように収穫果実の一部を何か月間も貯蔵することもあります。貯蔵中や流通の過程では、果実腐敗や鮮度の劣化が問題となります。私たちは既存技術と合わせて光触媒や LED 光を使った保存方法を検証し、技術の確立を進めています。

#### 🕒 私たちは食べたものでできている。ものはどんどん入れ変わる。

食物は、食べた瞬間は私たちの体の一部となります。果実1個の中には、地球内で循環している水、無機成分、光合成で作った成分等が含まれ、その場所で培ったエネルギーを消費者へ提供することと同意と言えます。例えばカンキツ類には、フラボノイドやカロテノイドのような機能性成分があり、栽培方法と機能性成分含量との関係を探ることで、食と健康を考えた研究を行います。

### 所属学会

園芸学会・日本食品科学工学会・American Society for Horticultural Science

### 資格 | 特技 | 学位

学位：博士（農学）

資格：普及指導員（第4383号）・日商簿記

受賞歴：農林水産省 第15回若手農林水産研究者表彰

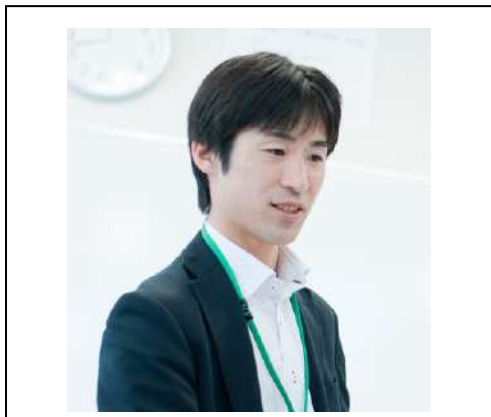
### 担当授業科目

<短大> 総合実習、圃場実習Ⅰ、圃場実習Ⅱ、企業実習  
県外農林業事情、プロジェクト研究

<大学> 生産マネジメント実習Ⅰ、生産マネジメント実習Ⅱ、圃場実習

よしまら ちかし  
吉村 親

【短期大学部】



yoshimura.chikashi あつと spua.ac.jp



## アピールポイント

私自身が農村地域に足を運びながら見聞きし、農村地域が抱える課題に向き合いたいと考えています。

地域住民、行政、各種団体と大学の協働による研究（アクションリサーチ）、新規参入による新規就農者の就農地の選定から定着及び農村地域の担い手への成長過程などに関心があります。

## キーワード／専門分野

食農教育、農業小学校、都市農村交流、グリーン・ツーリズム、新規就農、移住、農地、農業と福祉、生涯学習

## 主な研究分野／活動実績

### 所属 | 在職期間

- ◎ 新名学園旭丘高等学校 | 2008.4～2010.3
  - ・ 総合技術科教諭として普通高校における農業の教育及びカリキュラム研究に従事
  - ・ 農業をとおして生徒の興味関心や問いを生み出すなどの発達を促す教育や学習集団（交わりと自治）を意識したクラスづくりを実践
- ◎ 国際総合学園新潟農業・バイオ専門学校 | 2010.4～2014.3
  - ・ 開校準備業務を経て、農業経営学科主任講師として学科運営及び教育に従事
  - ・ 教育実践は、通年の農業インターンシップや農家圃場での栽培実習を中心とした地域連携教育（外に出ていく学科）の構築など
- ◎ 公益社団法人岩手県農業公社 | 2014.4～2020.3
  - ・ 農地の貸借・売買（岩手県農地中間管理機構）、新規就農者の確保・育成（岩手県新規就農相談センター）の業務に従事
  - ・ 岩手県農林水産部への出向

### 社会活動

「遺伝子組換えコンセンサス会議」道民委員（北海道：2006）など

### 所属学会等

日本農業教育学会、日本社会教育学会、日本園芸福祉普及協会

### 研究内容

【テーマ】 農業・農村体験学習に関する研究

【概要】 農と食を農村地域で継続的に学習する実践の効果分析

- ① 参加者、指導者及び活動支援者等の学習過程と意識変容
- ② 農業経営や農村地域への波及効果



### 資格 | 学位

【資格】 高等学校教諭専修免許状（農業・家庭科）

中学校教諭専修免許状（家庭科）

【学位】 修士（教育学）

### 担当授業科目

<短期大学部> 農山村田園地域公共学、プロジェクト研究 など

<大学> 農村社会論、農山村デザイン演習、医福食農連携論、グリーン・ツーリズム論 など